

第3次 明石市農業基本計画

～市民も農業者も笑顔になる持続可能な農業プラン～



2025年 3月

明 石 市

明石市農業基本計画 ～市民も農業者も笑顔になる持続可能な農業プラン～

目 次

第1章	はじめに	
	1. 第3次明石市農業基本計画策定の背景	1
	2. 計画期間	
	3. 計画の位置づけ	
第2章	明石市の概要	
	1. 明石市の位置と交通	2
	2. 明石市の人口及び世帯数の動向	3
第3章	明石市の農業の現状と課題	
	1. 農業を取り巻く社会情勢	4
	2. 明石市における農業の現状	6
	3. 明石市における農業の取り組み	9
	4. 明石市における農業の課題	13
第4章	基本政策・施策展開・事業内容	
	施策体系図	15
	6つの戦略における指標の達成度【2025年から2034年】	16
	[基本政策Ⅰ] 農業を「魅力ある産業」とする	17
	1. 明石の農業の担い手づくり	17
	2. 明石の力強い農業づくり	18
	[基本政策Ⅱ] 「水」をはじめとした「環境」と調和する	20
	3. ため池や豊かな海を支える農業と環境づくり	20
	[基本政策Ⅲ] 「市民との共創」により明石市全体を豊かにする	22
	4. 市民との共創による明石の農業づくり	22
	5. 市民の食と健康を支える農業づくり	23
第5章	推進体制等	
	1. 計画の推進と見直し	24
	2. 明石市農業基本計画策定委員会設置要綱	25
資料編		
	1. 第3次明石市農業基本計画にかかる市民アンケート結果	29
	2. 第3次明石市農業基本計画にかかる農会アンケート結果	58
	3. 第3次明石市農業基本計画にかかる畜産農業者アンケート結果	62
	4. 明石の農産物	64

第1章 はじめに

1. 第3次明石市農業基本計画策定の背景

明石市の農業は、温暖な気候と阪神圏に近い地理的条件を背景に、水稻、露地野菜、葉物野菜、花き等の生産を中心に、都市近郊型農業としてキャベツやブロッコリーと稲作を組み合わせた栽培体系を中心に、市東部では葉物野菜などが盛んに生産されてきました。魚住町清水付近で栽培されるイチゴは「清水いちご」と呼ばれ、逸品となっています。また、農業を支えるため池や水路は、遠い昔から現在に至るまでの長きに渡り、生計を立てるためだけにとどまらず、地域が自然・文化と共生し、防災面や環境面などの多面的な機能を発揮し、本市の魅力を高める重要な要素にもなっています。

明石市では、1996年、2012年に「明石市農業基本計画」を策定し、その時代に即した計画に基づく各種施策を推進してきました。現行の計画策定から10年以上が経過し、この間、明石市の農業従事者の高齢化や農家戸数、農作物の作付面積の減少が顕著になってきており、近い将来、遊休農地の増加のほか、農業用ため池や水路の管理体制の脆弱化が懸念されています。さらに、新型コロナウイルス感染症の蔓延やロシア・ウクライナ紛争の激化による燃料、資材費の高騰などの影響により、農業を取り巻く環境の厳しさは一段と増しています。

このようなことから、農業を取り巻く環境の変化や農業が抱える課題などを踏まえながら、多様化する消費者の「農」へのニーズ、SDGsの取り組みによる環境へ配慮した持続可能な農業の振興を推進するため、本計画の改訂を行うものです。

2. 計画期間

2025年度～2034年度の10ヶ年度

3. 計画の位置づけ

本計画は、あかしSDGs推進計画（明石市第6次長期総合計画）の個別計画に位置づけられるとともに、都市農業基本法の地方計画に位置づけられるものです。なお、本計画において都市農業とは、同法第2条による市街化及びその周辺の地域において行われる農業をいいます。



第2章 明石市の概要

1. 明石市の位置と交通

1-1 明石市の位置

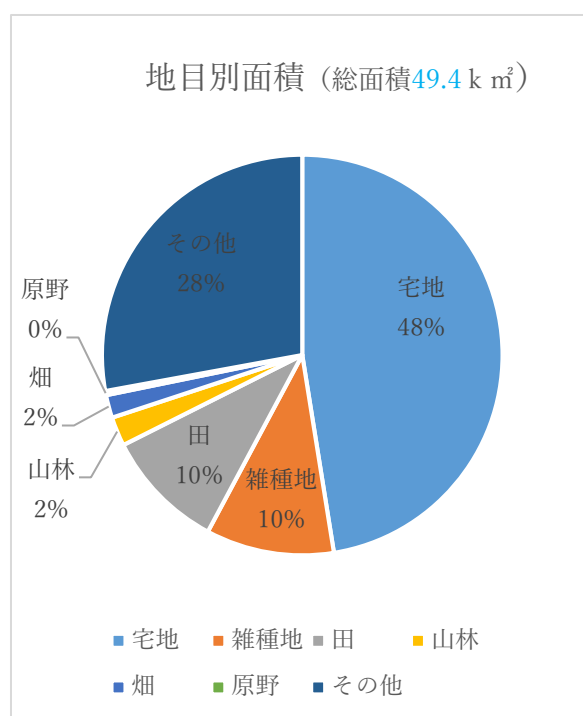
明石市は兵庫県南東部の東播磨地域に位置し、東部は神戸市、西部は加古川市などと隣接し、南は明石海峡大橋がそびえる瀬戸内海に面しています。鯛やタコを中心とした水産業が盛んな「魚のまち」として知られ、東経 135 度日本標準時子午線が通ることから、「時のまち」としても親しまれています。

市の面積は 49.41 km²（2024 年 7 月 1 日現在）であり、東西に細長く、高低差の少ない平坦なまちを形成しています。また、瀬戸内特有の温暖で降雨量が少ない気候で、古くから農業を支えるため池や水路等の灌漑施設が発達してきました。



1-2 明石市の土地利用

明石市は、自動車専用道路である第二神明道路、阪神高速が神戸、大阪と、山陽新幹線が西明石駅で大阪、東京などの国内主要都市と結んでおり、いずれも同市の高速交通網体系を担っています。人口は約 30 万人で、阪神都市圏への通勤も便利なことに加え、近年の子育て施策が功を奏し、人口が増加しており、農地の住宅地への転用がすすみ、市域面積のうち田・畑地は 11.6%となっています。一方で、農業生産面から見ると、消費地に近いというメリットもあり、都市近郊型農業が展開されています。

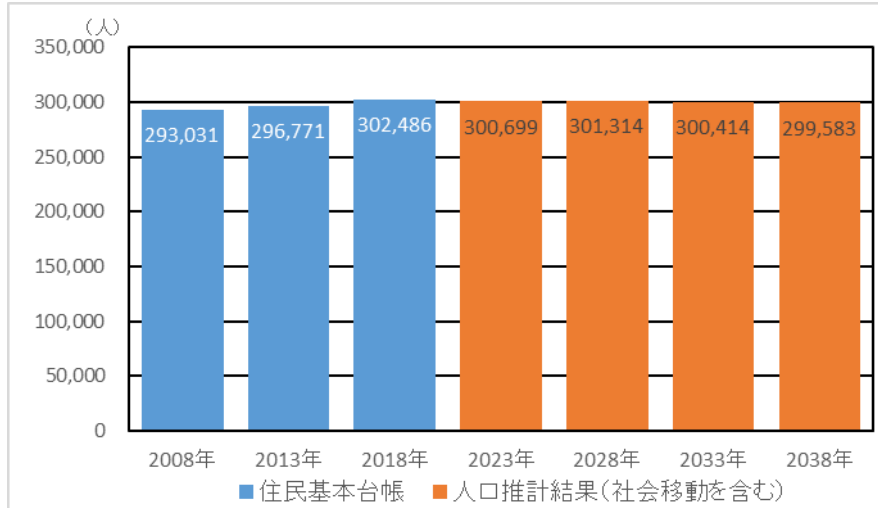


【出展：2020 年 明石市統計書】

2. 明石市の人口及び世帯数の動向

2-1 明石市の人口動向と将来予測

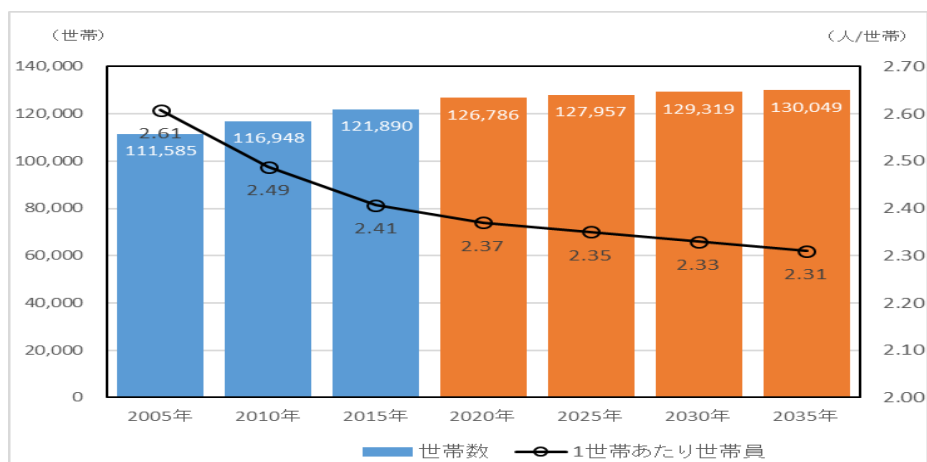
明石市の人口は1960年国勢調査では129,780人でしたが、2009年には292,443人となり、半世紀で約2.3倍に増加しています。人口の増加は2000年まで急速に進み、2018年には人口が30万人に達しています。その後20年間はほぼ横ばいで推移すると推計されています。



明石市の人口動向と将来予測

2-2 明石市の世帯数の動向と将来予測

明石市の世帯数は、1960年以降、現在まで一貫した増加傾向が続いており、1960年からの約50年間で、28,386世帯から118,349世帯と約4.2倍となりました。この間、核家族化の進行もあり、世帯員数は4.5人から2.5人と減少しています。同水準は概ね国内平均と一致しています。世帯あたりの人数は令和2年以降に2~3人前後で横ばいになり、世帯数もほぼ横ばいで推移すると推計されています。



明石市の世帯数の動向と将来予測

第3章 明石市の農業の現状と課題

1. 農業を取り巻く社会情勢

1-1 国内の人口減少と少子・高齢化の進展

2022年の出生数は、国の調査開始以後初めて80万人を下回り、約77万人となっています。また、高齢化率は29.1%と世界で最も高くなっています。人口は、明石市や首都圏で増加傾向にありますが、国内の総人口は2008年をピークに減少傾向にあり、今後、農業においても一層の労働力減少が見込まれます。2020年の農業者人口は、136万3千人と、2015年の175万7千人と比べて22%減少しました。また、65歳以上の階層は全体の70%（94万9千人）を占めるなど、担い手不足への対策は待ったなしの危機的な状況となっています。

1-2 食料・農業・農村基本法の改正と地域計画の策定

世界の食料需給については世界的な人口増加や新興国の経済成長が見込まれる中、気候変動や異常気象による大規模な不作等が食料供給に影響を及ぼす可能性があり、中長期的には逼迫が懸念されています。加えて地球環境問題への対応等、日本の農業を取り巻く情勢の変化を踏まえ、2024年6月に食料・農業・農村基本法が改正されました。国民一人一人の食料安全保障を柱とし、生産性の向上・付加価値の向上・環境負荷低減等が国内農業生産の方向性とされています。この方向性の実現に向け、更なる担い手の確保・育成や農地の集積・集約化、生産基盤の強化が必要とされています。

また、2022年5月に農業経営基盤強化促進法が改正され、市町村において、これまでの人・農地プランを土台とし、農業者等による話し合いを踏まえて、農業の在り方や、目指すべき将来の農地利用の姿を明確にする「地域計画」の策定を行うことになりました。

これに基づき、農地中間管理機構（農地バンク）を活用した農地の集積・集約化を進めるとともに、地域の農地の計画的な保全や、適切な利用も一体的に推進していくことになりました。

1-3 持続可能性への関心の高まり

2019年の国連サミットにおいて、世界が目指す目標として定められたSDGs（持続可能な開発目標）を契機に、農業に対しても持続可能性が求められています。農業経営の維持はもとより、持続可能な産地として、また、生物多様性や地球温暖化防止等の環境配慮の取り組みが重要視されています。

1-4 都市農地の位置づけの変化

市街化区域の農地については、1992年から生産緑地地区の指定が進められてきました。また、2016年に国で都市農業振興基本計画が策定され、市街化区域等の都市農地に

対する国の方針が、これまでの「宅地化すべきもの」から「都市にあるべきもの」へと変わりました。これにより、都市農地は、農業本来の機能に加え、環境、防災、教育、景観など多様な用途での機能の発揮が期待されています。

1-5 ロシア・ウクライナ紛争

2022年2月のロシアによるウクライナ侵略等により、穀物や農業用資材についても、価格高騰や原料供給国からの輸出の停滞等の安定供給を脅かす事態が発生しています。我が国の食料をめぐる国内外の状況は刻々と変化しており、食料安全保障上のリスクが増大しています。

1-6 みどりの食料システム戦略

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現させるため、「みどりの食料システム戦略」を策定しました。2022年7月には、この戦略を推進するため「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」が施行され、予算、税制、金融などの各種支援措置を講ずることで、生産者等が、環境負荷低減に取り組めるよう後押ししています。また、全ての補助事業などを対象に、最低限行うべき環境負荷低減の取り組みを要件化する環境負荷低減のクロスコンプライアンスを2024年度から試行実施されています。

1-7 気候変動

気候変動が原因で、生産環境の変化等による収穫量の減少や収穫物の品質低下など、農産物の生産環境に大きな影響を与えています。近年では、大型台風の度重なる襲来による栽培ハウスの損壊や、農地の湛水被害などが多くなっています。

1-8 スマート農業の進展とポスト・コロナ社会の農業

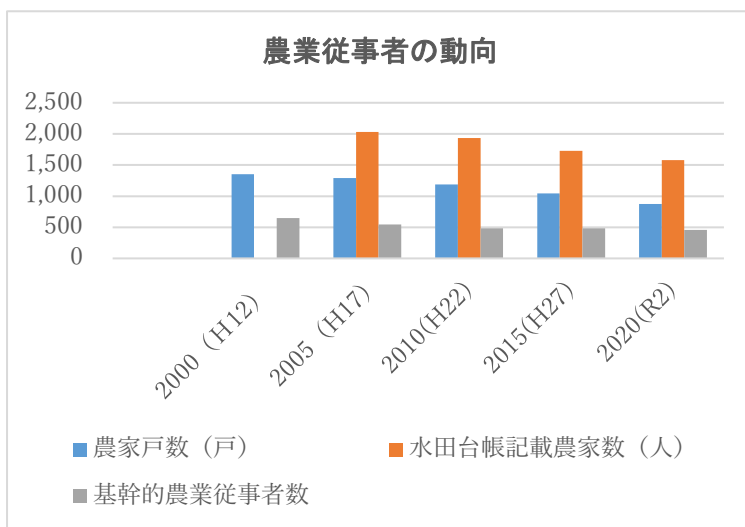
情報通信技術（ICT）や人工知能（AI）の急速な進歩により、これらの先端技術を取り入れたスマート農業が全国的に広がっています。今後の労働力不足への対応や生産量の拡大・安定化に向けた技術として、様々な農業分野における導入が期待されています。

また、新型コロナウイルスの流行は世界中に多大な影響を及ぼしましたが、農業分野においても変化の波が訪れています。コロナ禍を経て、新しい挑戦が始まっており、特に、人の接触を避ける必要があったため、デジタル技術を導入した遠隔操作が可能な農機や栽培管理システムの利用が広がっています。例えば、オンライン販売や情報交換が一般的になることで、農家と消費者が直接つながりやすくなるというメリットもあります。

2. 明石市における農業の現状

2-1 農業従事者の動向

明石市の総人口は増加傾向にあるものの、農家戸数は、2000 年と比べると 35%減少（1,352 戸から 874 戸）、水田台帳記載農家数は 2005 年と比べると 22%減少（2,031 戸から 1,577 戸）しています。さらに、普段仕事として主に農業に従事している基幹的農業従事者は 30%減少（650 人から 457 人）しています。担い手の中心的存在である基幹的農業従事者の 65 歳以上人口が 75%に迫り、高齢化が顕著となっています。



【出典：農林業センサス、明石市調べ】

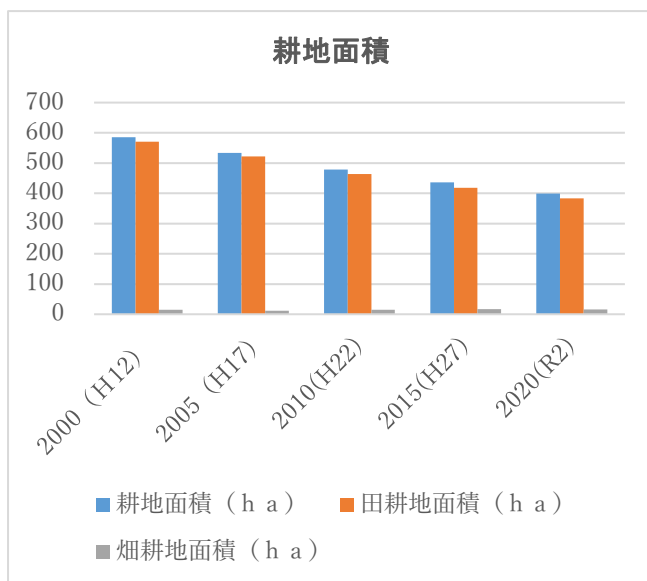
年齢別基幹的農業従事者数

年齢区分	実数(人)	比率
15～19歳	0	0.0%
20～24	0	0.0%
25～29	2	0.4%
30～34	5	1.1%
35～39	6	1.3%
40～44	8	1.8%
45～49	12	2.6%
50～54	18	3.9%
55～59	17	3.7%
60～64	49	10.7%
65～69	69	15.1%
70～74	97	21.2%
75～79	82	17.9%
80歳以上	92	20.1%
合計	457	100.0%

出典：2020農業センサス（農林水産省）

2-2 農地の動向

明石市の総土地面積 4,941 h a のうち、市街化区域 3,888 h a、市街化調整区域 1,053 h a となっています。このうち、市街化区域内の農地は 154 h a、市街化調整区域内の農地は 389 h a となっています。2012 年に比べると宅地が 112 h a 増える一方、市街化区域内の農地は、315 h a から 154 h a となり 51%減少しています。田耕地面積は、2000 年と比べると、33%減少しています。また、2023 年の水田台帳から集計すると、一人あたりの経営面積は、31.5 a と小規模農家が多いのが特徴です。一方、市内には 104 ヶ所のため池があります。1～3 h a の規模のため池が最も多く 49 ヶ所、5 h a 以上のため池は 10 ヶ所となっています。



【出典：農林業センサス】

	2010(H22)	2020(R2)	増減率
農地面積	709	543	-23.4%
市街化区域農地	315	154	-51.1%
農振農用地	200	202	1.0%
農振白地	194	187	-3.6%

【出典：明石市調べ（推計）】

	2023年 (R 5)
水田台帳登録面積	4,644,941m ²
水田台帳掲載者数	1,473人
一人あたりの面積	31.5 a (3反1.5畝)

【出典：明石市調べ】

	面積(ha)		区域別面積(ha)	農地面積(ha)	農振地内区別(ha)	
総土地面積	4,941	市街化区域	3,888	154	—	
		市街化調整区域	1,053	389	農振農用地	202
					農振白地	187

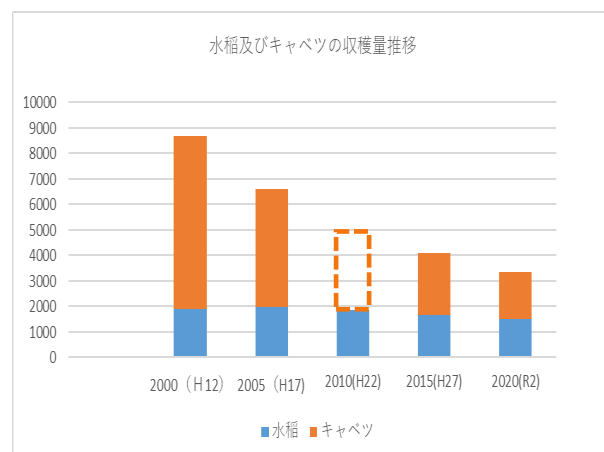
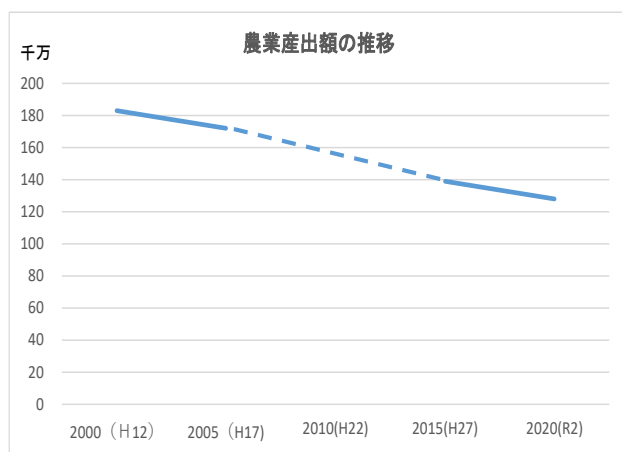
【出典：明石市調べ（推計）】

【農業振興地域】



2-3 農業生産

明石市農業産出額は、12.8 億円となっており、そのうち、野菜が 56.2%（約 7.2 億円）、米が約 25%（3.2 億円）となっています。産出額は、2000 年から 30%、2005 年から 24%減少しています。また、主要産物の水稻の収穫量は、2000 年と比べると 22%の減少、キャベツの収穫量は、2000 年と比較すると 73%減少しています。



【出典：農林業センサス他】※2010 年の農業産出額及びキャベツ収穫量はデータなし

3. 明石市における農業の取り組み

3-1 水田農業の振興

明石市では、水稻が基幹作物となっており、水田面積の半分以上では、主食用米が作付けされ、コシヒカリ、キヌヒカリ、ヒノヒカリ及びあきたこまちが主食用米の主な品種となっています。市民に安全で質の高い米を安定的に供給するため農薬の使用を最小限に抑え、有機物の施用を推進しています。



【黄金の稲穂】

3-2 野菜生産振興

明石市は、都市近郊地を生かした野菜産地であり、特に栽培が盛んな作物は、キャベツ、ブロッコリー、スイートコーンで、それに加え、葉物野菜（ほうれんそう等）、いちご、トマトなど、少量多品目の栽培が特徴です。昭和 41 年から農協や県農業改良普及センター、市場、出荷組合、市などで構成された園芸連合会が、野菜園芸の振興と生産物の出荷販売の安定を図るため、キャベツ、ブロッコリーの種子代の一部助成、栽培試験の事業を実施しています。



【県下3位の生産量「キャベツ」】

3-3 環境保全型農業の推進

水稻栽培においては、減化学肥料、減化学農薬を推進するため、たい肥の使用を推進、助成するとともに、緑肥としてヘアリーベッチ、レンゲ等の栽培への支援を行っています。キャベツ、ブロッコリーの栽培では、フェロモントラップ導入助成を行うなど、環境保全型農業の推進に努めています。



【環境にやさしい「ヘアリーベッチ」】

3-4 食育の推進

市民が明石市産の新鮮で美味しい農産物を消費することにより、農業に親しみと愛情をもってもらうことを目的に、農協が主体となって、市内の小学生などを対象に、もち米、スイートコーン、キャベツ、いちご等の農産物の植え付け体験や収穫体験を行っています。



【こどもたちの農業体験】

3-5 ほ場整備事業

農業の効率化と農業者の負担軽減や生産性の向上を図るため、農地の区画整理を主体として分散した農地の集団化、用水路や農道の整備、土地改良等を一体的に実施しています。

地 区 名	集 落 名	実施年度	受益面積 (ha)
鳥羽松陰	鳥羽新田・松陰・松陰新田	昭和 57 年～昭和 63 年	27.2
魚住東部	柳井・金ヶ崎・長坂寺	昭和 62 年～平成 3 年	65.0
東江井	東江井	平成 3～平成 6 年	16.5
清 水	清 水	平成 6 年～平成 11 年	31.6
西江井	西江井	平成 12 年～平成 17 年	18.8
清水新田	清水新田	平成 24 年～平成 28 年	13.0
中之番	中之番	未実施	16.5
松陰新田	松陰新田	未実施	31.2

3-6 ため池・水路の維持管理

明石市内には農業用ため池が 100 ヶ所以上あります。ため池は、農地に用水を安定的に供給する重要な役割を果たすとともに、豊かな生態系や水辺景観の保全など、さまざまな役割を果たしています。さらに、雨水がため池にいったん溜まることで、浸水被害を軽減し、その水は防火用水としても利用できるなど、防災面からも市民生活に重要な役割を担っていることから、明石市では、地域や兵庫県などの関係機関と連携し、ため池や水路などの補修、整備をすすめています。

3-7 ため池のかいぼり・一斉放流等

農業者と漁業者が連携し、窒素やリンなどを含んだため池の栄養分を海へ流すことで川や海の生き物の種類を多様にし、数を増やして豊かな海にする取り組みを進めています。市内のため池約 100 ヶ所の中の 40 ヶ所以上で日を決めて、ため池の水を流す「一斉放流」などを実施しています。このほか、農業者と近隣住民が協力し、ため池の清掃を行う「ため池クリーンキャンペーン」も延べ 15 ヶ所以上実施されています。



【農業者、漁業者による「かいぼり」】

また、12 月にはため池や農業に慣れ親しんでもらうため、大久保町にある西島皿池では、レンコン掘り大会が実施されています。

3-8 地産地消（明石市内の農産物直売所）

明石市内には、あかし農業協同組合と兵庫南農業協同組合が運営する6ヶ所の直売所があります。住宅地が近くにあることから、新鮮な地場産の農産物が提供されています。

【市内農産物直売施設の概要】

		JAあかし				JA兵庫南	
2009年度	店舗名	フレッシュ・モア 大久保店	フレッシュ・モア 西明石店	フレッシュ・モア 大久保駅前店	—	ふぁ～みんショップ 魚住	ふぁ～みんショップ 二見
	年間売り上げ	約67,000千円	約82,000千円	約6,900千円	—	約220,000千円	約170,000千円
	登録生産者数	50人				133人	41人
	来客数	約57,000人	—	—	—	約175,000人	約95,000人
※JAあかしの年間売り上げ、登録生産者数は2010年度調べ							
		JAあかし				JA兵庫南	
2018年度	店舗名	フレッシュ・モア 大久保店	フレッシュ・モア 西明石店	フレッシュ・モア 大久保駅前店	JAファーマーズ プチフレッシュ・モア 江井ヶ島	ふぁ～みんショップ 魚住	ふぁ～みんショップ 二見
	年間売り上げ	28,782千円	93,979千円	27,555千円	29,964千円	181,678千円	163,704千円
	登録生産者数	121人				131人	34人
	来客数	21,182人	91,350人	29,499人	—	125,700人	116,677人
		JAあかし				JA兵庫南	
2023年度	店舗名	フレッシュ・モア 大久保店	フレッシュ・モア 西明石店	フレッシュ・モア 大久保駅前店	JAファーマーズ プチフレッシュ・モア 江井ヶ島	ふぁ～みんショップ 魚住	ふぁ～みんショップ 二見
	年間売り上げ	17,617千円	85,378千円	12,072千円	60,354千円	159,187千円	135,215千円
	登録生産者数	101人				157人	41人
	来客数	11,577人	76,715人	11,235人	153,117人	101,799人	90,402人

3-9 明石市内の市民農園

市民農園とは、市民がレクリエーションなどを目的として、自家用の野菜や花を栽培したり、農作業を体験したりする小面積の農園で、市内には、営農組合や民間団体が運営する市民農園があります。

- ①グリーンファームえいがしま（大久保町江井ヶ島）
- ②グリーンファーム赤根川（大久保町江井ヶ島）
- ③グリーンファーム清新（魚住町清水）
- ④明石太寺体験ファーム（太寺2丁目）
- ⑤明石西オーギー・ファーム（魚住町清水）
- ⑥井上農園（松江）



グリーンファームえいがしま

3-10 有害鳥獣の駆除

環境省に特定外来生物に指定されているアライグマやヌートリアは、農作物に危害を与えるだけでなく、近年では、市街地などでも広範囲で目撃情報があり、様々な被害を与えています。明石市では防除計画を策定し、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)に基づき、地元の猟友会をはじめ、兵庫県森林動物研究センターと連携し、罠の設置など被害の根絶を目指しています。



捕獲されたアライグマ

4. 明石市における農業の課題

4-1 担い手の高齢化・新規就農者の確保

全国的な傾向と同じく、明石市においても農業者の高齢化がますます進んでおり、親元での新規就農が一定数あるものの、それ以外の新規就農者が少ないのが現状です。地域計画策定のアンケート結果を見ても、後継者については、農業者のほとんどが「無し」又は「わからない」と回答しています。労働力不足を解消するため、新たな労働力となる新規就農者等担い手の確保が求められています。

4-2 農地の保全と活用

現状は耕作している農地においても、近い将来、担い手の高齢化や後継者不足により、遊休農地が発生する可能性があるため、持続的な農地の保全と活用を図る必要があります。一方で、先祖から受け継いだ農地を他人に貸したり、集落に新規就農者を受け入れることに抵抗を持っている農業者が多い現状から、農地の流動化や集約化には、地域の理解と一定の時間が必要です。

さらに、住宅地に近い明石市においては、農業用機械の騒音、野焼き、たい肥の臭いなどに対する市民の苦情や、農地やため池への不法投棄など、営農を困難にする特有の問題もあります。

4-3 ため池・水路等の維持管理

明石市においては、近隣市町と同様、歴史的に水田農業を中心に行ってきた経緯から、100ヶ所以上のため池と農業用水路が多く存在します。これらの日常の維持管理は地域の農業者（水利組合）が中心となって行っています。農地の保全と同様、従事者の高齢化が進み、ため池や水路、草刈りなど日常の維持管理活動が困難となっており、台風などの大雨発生時に災害を及ぼす可能性も指摘されています。

4-4 農業経営の効率化

農業が担い手にとって魅力的な産業となるためには、コストを削減し、収益力を向上していく必要があります。農地の集積・集約化や大型機械の共同利用、スマート農業技術の導入を通じて、農業に取り組む担い手の労働環境を改善し、農業経営の効率化をすすめることが重要です。

担い手を育成するには、明石市産品の学校給食などへの積極的な活用を通して、地産地消や食育を推進することで、「再生産可能な価格形成」を図っていく必要があります。

4-5 野菜生産振興

明石市は、歴史的にキャベツやブロッコリー、清水いちご、スイートコーンの生産など高い農業生産技術を保有しています。農業者人口は減少傾向にありますが、市、園芸連合会や農協などが相互に連携し、明石市産野菜の高付加価値化を図るとともに、認定

農業者などの中核農家を応援していく仕組みが求められています。

4-6 地産地消と学校給食

地産地消は地元の農産物を購入し食べるということだけではなく、農業者の所得向上と、市民の食と健康を支える重要な取り組みです。明石市産農産物の直売所などでの販売量の増加と学校給食でのさらなる活用が求められています。明石の農業の理解者、食の応援団をつくることで農業が地域の大切な産業として、子どもたちをはじめ、次の世代につながっていきます。

また、フードマイレージの観点から、遠方からの輸送費がかからないことや、輸送車両等から排出される温室効果ガス排出量の削減効果と輸送用梱包等の資材の省資源化が期待されます。

4-7 有機農業、減化学肥料・減化学農薬栽培の推進

近年、環境保護や持続可能性の視点から有機農業や減化学肥料・減化学農薬栽培に注目が集まっています。

日本は化学肥料原料のほとんどを輸入しており、国際情勢に左右されにくい安定した食料供給実現のため、さらには、環境負荷の低減を進め、持続可能な農業の実現に向けて、明石市においても、有機農業の推進を含め、化学肥料・化学農薬の使用低減を進めていく必要があります。

4-8 市民との共創

農業は、その生産活動を通じ、環境保全、水源のかん養、生物多様性の保全、良好な景観の形成、文化の継承など多面的な機能を保有しており、農業者のみならず、市民にとっても農地と生産環境を維持する取り組みがますます重要となってきます。市民との共創による、都市部と農村部が共存した明石ならではの「農」を活かしたまちづくりが求められています。

4-9 有害鳥獣と特定外来生物

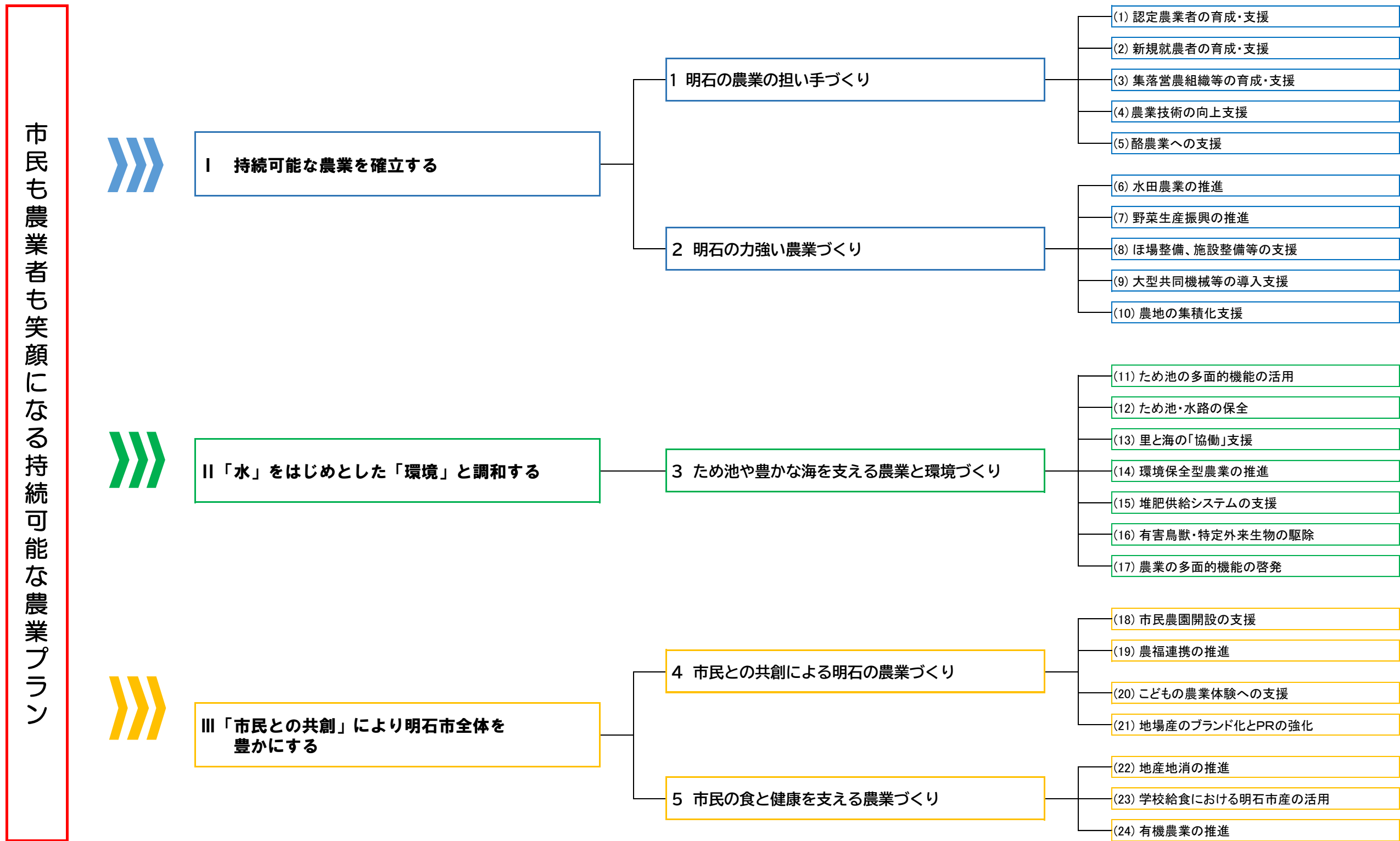
近年、特定外来種生物のアライグマ、ヌートリアが急増し、農作物に甚大な被害を与えており、捕獲を進め、安心して営農できる環境を整える必要があります。

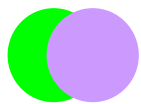
また、水辺で大群落を形成し、通水や利水に悪影響を及ぼす「ナガエツルノゲイトウ」が一部の河川で確認されています。今後、水路、ため池、水田、畦畔（あぜ）などに繁殖することにより営農に支障を及ぼす可能性が指摘されており、対策が求められています。

第4章 基本政策・施策展開・事業内容

第3次明石市農業基本計画は、「市民も農業者も笑顔になる持続可能な農業」を将来像とし、3つの基本的な考え方のもと、これを実現するため、5つの戦略を設け、24の施策を設定しています。

【第3次明石市農業基本計画における施策体系】





5つの戦略における指標の達成度【2025年から2034年】

戦 略	施 策 体 系	10年後の指標値
1 明石の農業の担い手づくり	(1) 認定農業者の育成・支援	●認定農業者数 【 35人 → 35人 】 ●認定新規就農者 【8人（2012年から2024年） → 7人（2025年から2034年） 】 ●集落営農数 【4地区 → 6地区 】 ●大型共同機械導入数のべ【1基 → 7基 】 ●ほ場整備地区数 【6地区 → 7地区 】
	(2) 新規就農者の育成・支援	
	(3) 集落営農組織等の育成・支援	
	(4) 農業技術の向上支援	
	(5) 酪農業への支援	
2 明石の力強い農業づくり	(6) 水田農業の推進	
	(7) 野菜生産振興の推進	
	(8) ほ場整備、施設整備等の支援	
	(9) 大型共同機械等の導入支援	
	(10) 農地の集積化支援	
3 ため池や豊かな海を支える農業と環境づくり	(11) ため池の多面的機能の活用	●雨水貯留施設用ため池数 【21池 → 30池 】 ●市民参加型ため池イベント数 【30池 → 30池 】 ●里と海の協働活動参加ため池数 【42池 → 45池 】 ●緑肥作付面積 【40ha → 70ha 】
	(12) ため池・水路の保全	
	(13) 里と海の「協働」支援	
	(14) 環境保全型農業の推進	
	(15) 堆肥供給システムの支援	
	(16) 有害鳥獣・特定外来生物の駆除	
	(17) 農業の多面的機能の啓発	
4 市民との共創による明石の農業づくり	(18) 市民農園開設の支援	●小学校での農業体験の実施 【 7校 → 11校 】 ※農業者やJA職員の指導によるもの ●農福連携の取組み農家数 【 2戸 → 10戸 】 ●学校給食明石市産米利用率 【 83% → 100% 】 ●有機農業取組面積 【 0ha → 10ha 】
	(19) 農福連携の推進	
	(20) こどもの農業体験への支援	
	(21) 地場産のブランド化とPRの強化	
5 市民の食と健康を支える農業づくり	(22) 地産地消の推進	
	(23) 学校給食における明石市産の活用	
	(24) 有機農業の推進	

◆基本政策Ⅰ 「持続可能な農業」を確立する

連綿と受け継がれてきた明石の農業はもとより、農地やため池、水路を次世代へ引き継いでいくため、農業経営基盤の強化、集落営農の組織化や新規就農の促進等を行い、担い手の確保・育成に努め、持続可能な水田農業の確立とあわせ、野菜生産振興・酪農業振興を推進します。

1. 明石の農業の担い手づくり

農家の高齢化が進み、後継者不足が顕著に見られることから、中核的な担い手である認定農業者や集落営農組織だけではなく、新規就農者、法人・企業、兼業農家に加え、定年帰農者や働きながら余暇や趣味を活かした就農者など、さまざまな農業の担い手の育成を推進します。

(1-1) 認定農業者の育成・支援

事業内容	市の農業の中核的な担い手である認定農業者について、関係機関と連携し経営相談に応じるとともに、補助事業についての情報提供や申請支援、農地利用集積の支援等、農業経営改善計画の達成にむけて各農業者の課題に応じた支援を行います。
関係者	農協、農業委員会 農地中間管理機構、県

(1-2) 新規就農者の育成・支援

事業内容	就農希望者、定年帰農者など幅広い人材の確保・育成を推進するため、それぞれの希望する就農形態等に即した情報提供を行います。新規就農者に対して、農協、農会、農地中間管理機構等と連携し、農地のマッチングや機械・施設の整備等の支援を行い、円滑に就農が開始できる環境づくりに努めます。
関係者	農協、農会、農地中間管理機構、農業委員会、県

(1-3) 集落営農組織等の育成・支援

事業内容	既存の集落営農組織の運営支援や人材の育成支援をはじめ、機械の共同利用を行うグループ等の育成について支援します。 また、農協等の作業受委託サービスを効果的に活用しながら、適正かつ安定的な農地管理を推進します。
関係者	集落営農組織、農会、農協、県

(1-4) 農業技術の向上支援

事業内容	園芸連合会を中心に栽培技術の向上、開発に取り組むとともに、その技術の普及を推進します。また、農業者同士が交流する機会を作り、栽培や経営に関する情報交換や技術伝承を行えるように支援します。
関係者	園芸連合会、農協、県

(1-5) 酪農業への支援

事業内容	生産コストの低減や生乳生産量の維持・拡大に向けた取り組みを支援するとともに、気候変動等に対応した対策など酪農家が安心して営農できる環境づくりを支援します。
関係者	農協、県

2. 力強い明石の農業づくり

明石市の農業は、兼業農家や自給農家が多く、専業農家や販売農家の占める割合が低いことから、一人あたりの農業生産量や農業所得も低く、産業としての脆弱さが目立っています。明石市の農業を再生するためには、経営規模の拡大や農作物の品質向上等、効率的で安定的な農業へ転換することが必要です。このため、規模拡大に意欲のある担い手に優良農地を集積し、生産性の向上を図るとともに大型農業機械の共同利用を推進し、経営所得の安定確保に取り組めます。

(2-6) 水田農業の推進

事業内容	国の農業政策（経営所得安定対策事業）を中心に、食料自給率の向上を図るとともに、農地やため池等の日常管理が密接に係る水田農業を維持できる環境づくりを支援します。また、地球温暖化に対応した高温耐性品種の導入を図ります。
関係者	農協、農業再生協議会、農会、県

(2-7) 野菜生産振興の推進

事業内容	園芸連合会を中心に、主要作物のキャベツやブロッコリー栽培などにおいて、明石の気候風土に合い、市場評価の高いものを奨励品種として認定し、種子代の一部助成など、野菜生産を推進します。
関係者	園芸連合会、農協、県

(2-8) ほ場整備、施設整備等の支援

事業内容	耕地区画の整備、パイプラインの整備、農道の整備などを実施することによって労働生産性の向上を図り、農業の環境条件を整備します。
関係者	農振地域農業者、県

(2-9) 大型共同機械等の導入支援

事業内容	農作業の効率化を図るため、大型コンバインやトラクター等の導入支援やスマート農業の導入、シェアリングの推進等、地域に応じた営農技術体系の確立を図ります。
関係者	集落営農組織、認定農業者、県

(2-10) 農地の集積化支援

事業内容	地域の実情や地域計画を勘案しつつ、農地中間管理機構と連携し、所有者不明農地や遊休農地も含め、農地の所有者の委任を受け、農地の貸付を行うことで、認定農業者をはじめ意欲ある多様な農業者への農地の利用集積を促進します。
関係者	農地中間管理機構、農業委員会

◆基本政策Ⅱ 「水」をはじめとした「環境」と調和する

播磨灘を望む「豊かな海」と市内の104ヶ所の「ため池」を明石固有の水資源と位置づけます。明石市が将来にわたり「水」と共生し、自然と環境の恵みを享受するために、行政、市民、農業者、関係団体が協働し「水」資源を守り育む農業を推進します。

3. ため池や豊かな海を支える農業と環境づくり

明石市の農業を支え、良好な環境を維持している代表的な資源は、多くのため池と豊かな瀬戸内海などの「水」です。将来にわたり自然や環境の恵みを享受し、農業の継続的な発展のために、明石市の特徴的な「水」を中心とした環境を保全し、活用します。

(3-11) ため池の多面的機能の活用

事業内容	遊歩道、防災機能、レクリエーション機能、環境・歴史学習など、ため池が保有する多面的機能を、次世代につなぐため「いなみ野ため池ミュージアム」と連携した啓発と市民の参画や関係団体の協働活動を支援します。また、ため池の治水利用拡大を推進し、ため池管理者を支援します。
関係者	農業者、市民、企業等、教育委員会、県

(3-12) ため池・水路の保全

事業内容	農業用水を確保していくために、ため池・水路の補修・整備を行います。ため池協議会を中心にクリーンキャンペーンを推進するなど、ため池・水路の日常管理を地域と協働で行う活動を支援します。また、ため池や水路の管理体制の強化、草刈りや水管理の省力化を推進するとともに、ため池等の水質改善・不法投棄などの対策及び処置を講じます。
関係者	農業者、市民、ため池協議会

(3-13) 里と海の協働

事業内容	ため池管理者と漁業関係者の協働によるかいぼり（池干し）や一斉放流を行い、ため池の栄養分を川を通して海へ送り、「豊かな海の再生」をめざす取り組みを支援します。
関係者	農業者、漁業者、県

(3-14) 環境保全型農業の推進

事業内容	ヘアリーベッチ等の緑肥を作付けすることで、土壌中に有機物を加えて土壌改良に役立つ「カバークロップ」の取り組みを支援するとともに、機械除草や抵抗性品種の導入等農薬削減に向けた取り組みを支援します。
関係者	農業者、県

(3-15) 堆肥供給システムの支援

事業内容	耕種農家と畜産農家の連携による堆肥の利用促進を図ることで、環境にやさしい土づくりへの支援を行います。
関係者	農業者、農協

(3-16) 有害鳥獣・特定外来生物の駆除

事業内容	近年、生息頭数が急激に増加し、農作物に被害を与えている、特定外来生物のアライグマ・ヌートリアの駆除を行います。 また、通水や利水など農業に悪影響を及ぼす特定外来生物である植物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除を支援します。
関係者	猟友会、農業者

(3-17) 農業の多面的機能の啓発

事業内容	水源のかん養、景観形成、防災等の農業や農地が持つ多面的機能の市民への啓発を行います。また、農業者には景観作物（コスモス）の種子代の助成を行い農地の持つ魅力の創出に努めます。
関係者	農業者、農協

◆基本政策Ⅲ 「市民との共創」により明石市全体を豊かにする

明石市の農業は、農産物の提供、食育、環境保全など多面的な機能を持ち、その恩恵を市民みんなが受けるとともに、子どもから高齢者まで、市民がさまざまな形で農業と触れ合える機会を生み出しています。一方、農業者の減少・高齢化が進んでいることから、市民、農業者、事業者、行政などの「共創」により、有機農業や地産地消、農福連携を推進し、明石市の農業の活性化を推進します。

4. 市民との共創による明石の農業づくり

農業に関する情報提供や農業者と市民との交流の機会、市民農園等の農業体験の場を拡充するとともに、農業者と市民が協力・協働する体制をつくり、市民生活に農業、農業環境を活かしたまちづくりを行います。

(4-18) 市民農園開設の支援

事業内容	市民農園のニーズが高まるなかで、集落営農組織や農業者、企業等による民間型市民農園の開設を促進します。
関係者	農業者、企業、集落営農組織、県

(4-19) 農福連携の推進

事業内容	高齢者や障害者、ひきこもり等、人が農業を通じて心身の健康を維持・回復する機会が持てるよう、関係者と農業者をつなげる支援を行います。また、農業分野での障害者の就労支援を通じて、障害者の就労先の確保及び農業の支援者や新たな担い手の拡大を図ります。
関係者	農協、福祉事業所、県、(公社)ひょうご農林機構

(4-20) こどもの農業体験への支援

事業内容	小学校等の教育田への支援を継続するとともに、田植えや芋ほり等の様々な農業体験ができるよう、学校や保育施設と周辺の農業者のマッチングを支援します。
関係者	農業者、農協、教育委員会、学校、保育施設

(4-21) 地場産のブランド化とPRの強化

事業内容	明石市産品の高付加価値化、ブランド化を図るとともに、市の広報やSNS等を活用し、明石市産品や農業に関する情報発信を強化します。また、農商工連携や6次産業化の推進により農畜産物の付加価値の向上を図ります。
関係者	農協、県

5. 市民の食と健康を支える農業づくり

人間の健康づくりの基本は「食」であり、「食」を支える産業が農業です。明石市の農業で市民すべての「食」を供給することはできませんが、可能な限り有機農業や地産地消を進め、市民の健康を支える安全・安心な農産物の供給を推進します。

(5-22) 地産地消の推進

事業内容	直売所の品揃えの充実や年間を通じた商品の安定供給、品質の確保、適正価格の設定など、関係機関が連携し取り組みます。
関係者	農協、農業者、県

(5-23) 学校給食における明石市産の活用

事業内容	学校給食における市内農産物の利用を促進するために、教育委員会等との連携を強化するとともに、学校給食用農産物の契約栽培等による安定供給体制を構築します。
関係者	農協、教育委員会

(5-24) 有機農業の推進

事業内容	有機農業に挑戦する農業者に対し、実証試験等を実施するほか、補助事業の有効活用を支援するなど、有機農業を推進します。また、消費者や実需者などが有機農業等の明石の「農」を理解し、強固なつながりが構築されるよう支援します。
関係者	農協、農業者、県

第5章 推進体制 等

1 計画の推進と見直し

本計画が着実に実施され、目的が十分に達成されるよう計画推進については以下の考え方を基本とします。計画に関係する農業者をはじめとする農業者団体、市民、関連事業者、行政など各主体が各役割を認識して取り組むとともに、既存の関連団体等は、情報を共有し相互に連携を図ります。また、定期的に計画の進行状況を関係者間で、確認・評価し合いながら、基本理念である「市民も農業者も笑顔になる持続可能な農業」を実現するために、市民からの意見にも耳を傾けます。

(1) 計画推進の体制

計画推進について、主たる関係主体が情報を共有し、進行状況を確認・評価した上で、着実に取り組んでいきます。推進体制は、市が中心となり、兵庫県や農協などの関連団体と相互に連携しながら、一丸となって計画の実現を目指します。また、市内部においても、農業振興課はもちろんのこと、関係各課とも方向性を共有し、より効率的・効果的な施策の実施に努めます。

(2) 進行管理

計画の着実な進捗をはかるため、市が中心となり、10年間の計画期間を通してPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルによる進行管理を行います。進行管理については、施策の必要性和財政負担を勘案し、必要に応じて、施策の進行を点検、管理します。また、長期総合計画をはじめとする市の各種行政計画や国・県の関連計画・ビジョンとの整合性も図っていくこととします。

(3) 計画の見直し

計画の進捗状況に加えて、周辺環境の変化や国の政策動向などに柔軟に対応するため、必要に応じて見直しを行います。また、計画の見直しを行うにあたっては、農業関係者をはじめ、関係機関、市民からの意見も踏まえながら行うこととします。

2 明石市農業基本計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)の農業分野の個別計画である明石市農業基本計画(以下「計画」という)の策定に関し、明石市における農業の現状及び課題を明らかにし、今後の農業振興のあり方についての検討を行うため、明石市農業基本計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討を行い、計画の素案を作成し、市長に報告するものとする。

- (1) 明石市における農業の現状分析と課題の抽出に関すること。
- (2) 明石市における農業の進むべき基本方向に関すること。
- (3) 明石市における今後の農業振興施策に関すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、計画に盛り込むべき内容に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長1人及び委員13人以内をもって組織する。

2 委員長は学識経験を有する者から、副委員長及び委員は次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 農業協同組合の代表者
- (2) 農業に携わる者
- (3) 流通業に携わる者
- (4) 公募による市民
- (5) 兵庫県の職員
- (6) その他市長が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員長、副委員長及び委員の任期は、第2条に規定する事務が終了するまでとする。

(委員長の職務等)

第5条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

(意見の聴取)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、産業振興室農業振興課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則（平成 23 年 6 月 1 日制定）

（施行期日）

1 この要綱は、制定の日から施行する。

（招集の特例）

2 この要綱の施行の日以後最初に開かれる委員会の会議は、第 6 条第 1 項の規定にかかわらず、市長が招集する。

附 則（令和 6 年 5 月 1 日制定）

（施行期日）

この要綱は、制定の日から施行する。

【第 3 次明石市農業基本計画策定委員会名簿】

	氏 名	団体名 役職
学識経験者	長野 宇規	神戸大学大学院農学研究科 准教授
行政	秋月 麻美	兵庫県加古川農林水産振興事務所 所長
農業者	大中 秋美	農業者
農業者	藤田 梨奈	農業者
農業者	橋本 匠	農業者
農協代表者	政井 広大	J A あかし経済課 係長
農協代表者	瀬戸 裕二	J A 兵庫南明石播磨営農経済センター センター長
流通関係者	園田 素子	生活協同組合コープこうべ第 6 地区 本部長
環境食農関係者	久保山 昌子	生活協同組合コープ自然派兵庫 理事
公募市民	中嶋 淳子	公募市民
公募市民	倉谷 育宏	公募市民

※敬称略

【策定委員会の開催】

（1）第 1 回委員会

日時：令和 6 年 7 月 30 日（火）午後 3 時～午後 5 時 00 分

場所：明石市役所 議会棟第 3 委員会室

（2）第 2 回委員会

日時：令和 6 年 11 月 5 日（火）午後 3 時～午後 4 時 45 分

場所：明石市役所 議会棟第 3 委員会室

（3）第 3 回委員会

日時：令和 6 年 12 月 24 日（火）午後 3 時～午後 5 時 00 分

場所：明石市役所 議会棟第 3 委員会室

（4）第 4 回委員会

日時：令和 7 年 1 月 31 日（金）午後 3 時～午後 4 時 30 分

場所：明石市役所 議会棟大会議室

資 料 編

1. 第3次明石市農業基本計画策定にかかる市民アンケート結果

【調査対象者】18歳以上の市民1,000名（無作為抽出による）

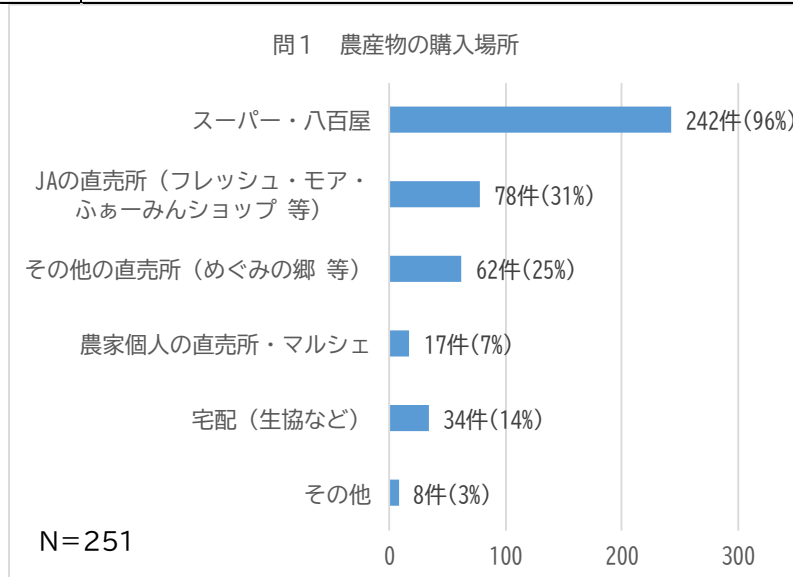
【調査期間】令和6年7月3日から7月31日

【回収率】25.1%（251件回収）

■地場農産物の購入、消費についてお聞きします

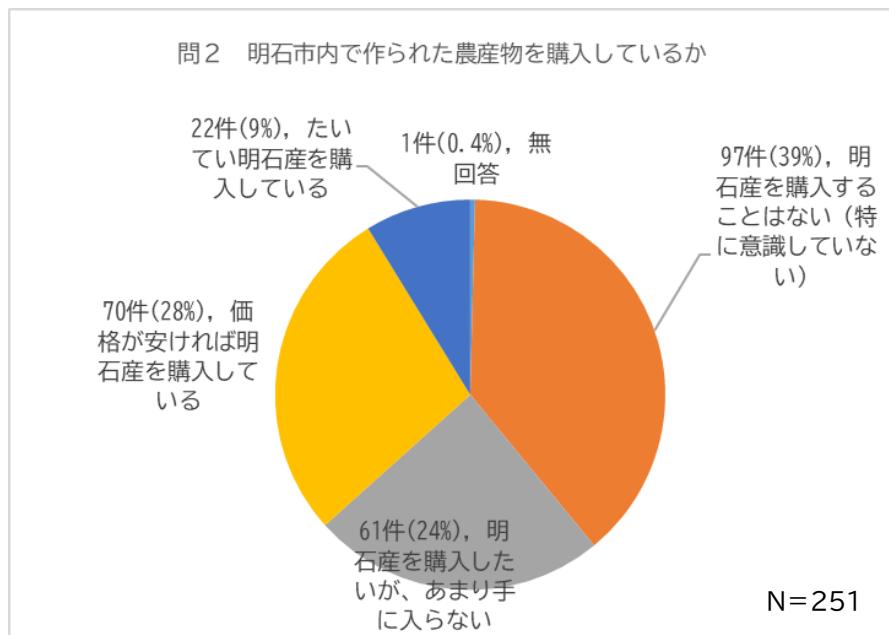
Q1 あなたは日頃、農産物をどこで購入しますか。（いくつでも回答可）

	項目	件数	%
1	スーパー・八百屋	242	96%
2	JAの直売所（フレッシュ・モア・ふぁーみんショップ 等）	78	31%
3	その他の直売所（めぐみの郷 等）	62	25%
4	農家個人の直売所・マルシェ	17	7%
5	宅配（生協など）	34	14%
6	その他（家庭菜園、親戚や知人からもらう 等）	8	3%



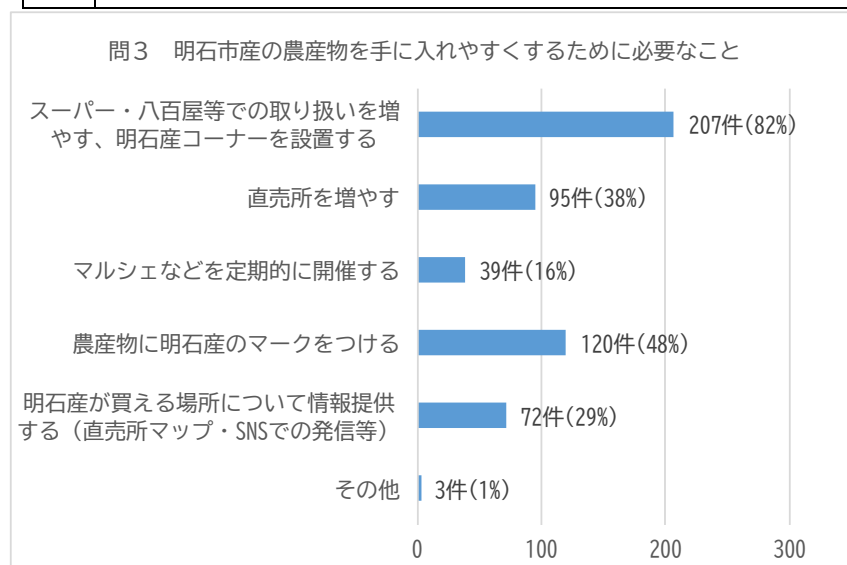
Q2 あなたは日頃、明石市内で作られた農産物を購入していますか。（1つだけ回答可）

	項目	件数	%
1	たいてい明石産を購入している	22	9%
2	価格が安ければ明石産を購入している	70	28%
3	明石産を購入したいが、あまり手に入らない	61	24%
4	明石産を購入することはない（特に意識していない）	97	39%
99	無回答	1	0.4%



Q3 明石市内で作られた農産物を手に入れやすくするために、どんなことが必要ですか。(いくつでも回答可)

	項目	件数	%
1	スーパー・八百屋等での取り扱いを増やす、明石産コーナーを設置する	207	82%
2	直売所を増やす	95	38%
3	マルシェなどを定期的に開催する	39	16%
4	農産物に明石産のマークをつける	120	48%
5	明石産が買える場所について情報提供する(直売所マップ・SNSでの発信等)	72	29%
6	その他(道の駅をつくる、価格を下げる 等)	3	1%



Q4 あなたは農産物を買うとき、無農薬栽培や有機栽培であることを気にしますか。

(1つだけ回答可)

【有機栽培】

植物性由来や動物性由来の有機肥料を主として栽培し、特定の農薬や化学肥料などの無機質肥料を使わない農法。

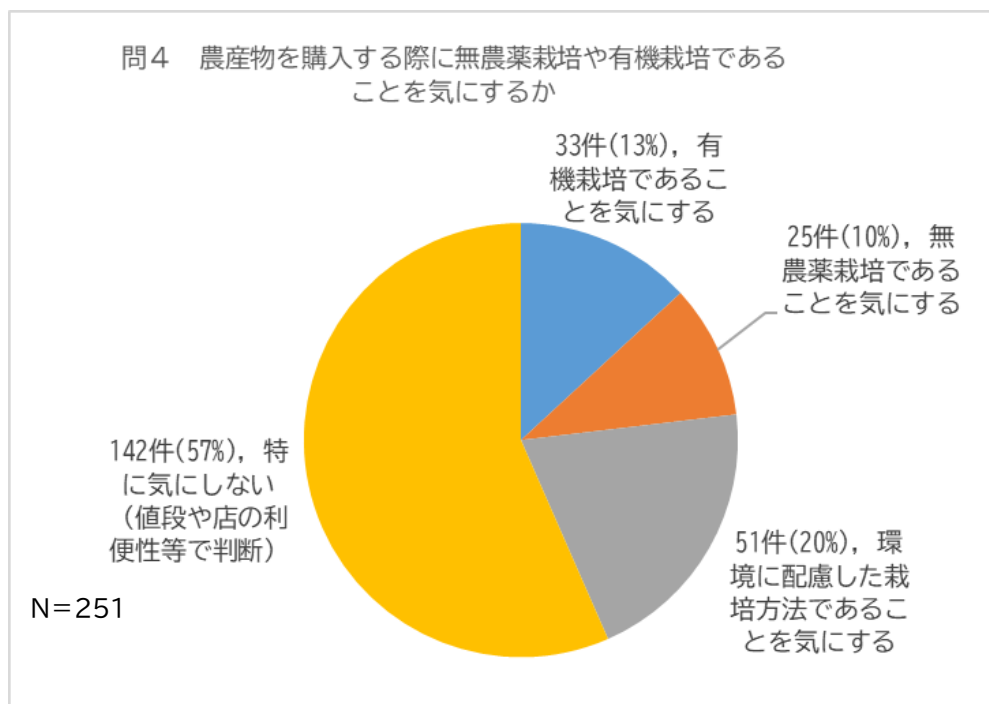
【無農薬栽培】

生産期間中に全く農薬を使用しない栽培方法。

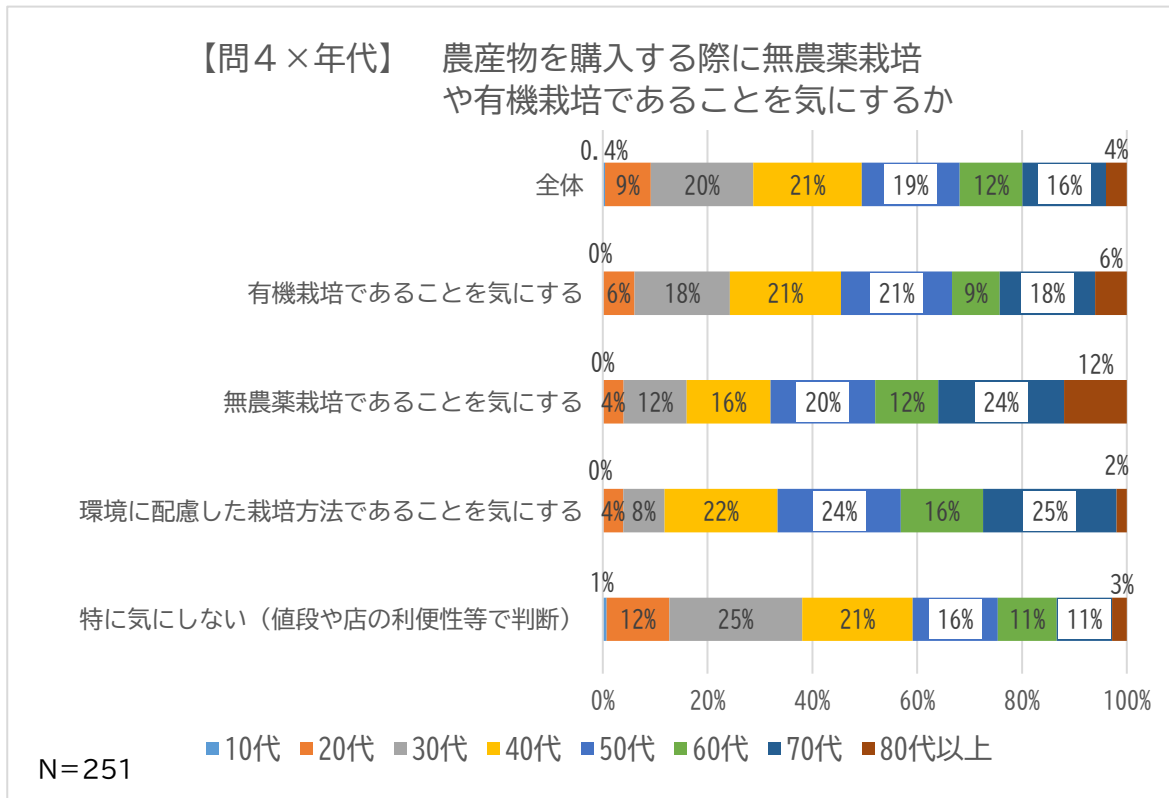
【環境に配慮した栽培方法】

通常よりも栽培時の農薬や化学肥料を減らして作物を育てる、有機肥料を使用する等、環境に配慮した栽培方法。

	項目	件数	%
1	有機栽培であることを気にする	33	13%
2	無農薬栽培であることを気にする	25	10%
3	環境に配慮した栽培方法であることを気にする	51	20%
4	特に気にしない（値段や店の利便性等で判断）	142	57%



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
有機栽培であることを気にする	0	2	6	7	7	3	6	2	33
無農薬栽培であることを気にする	0	1	3	4	5	3	6	3	25
環境に配慮した栽培方法であることを気にする	0	2	4	11	12	8	13	1	51
特に気にしない（値段や店の利便性等で判断）	1	17	36	30	23	16	15	4	142

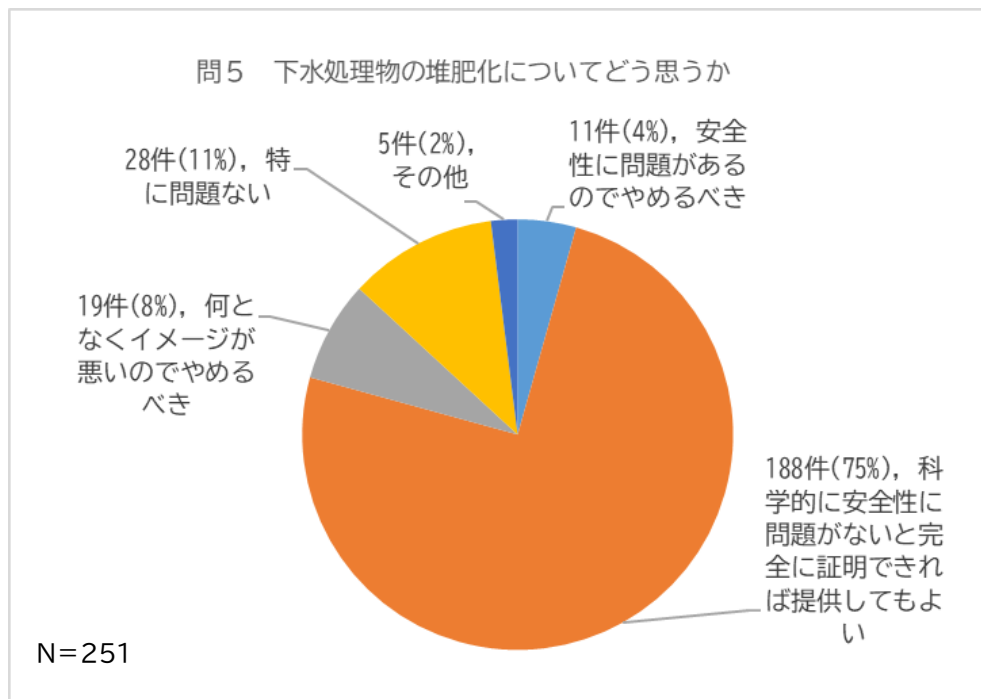


Q5 下水処理物を堆肥化し、農家や家庭菜園に提供することについてどう思いますか。（1つだけ回答可）

下水処理物の堆肥化とは？

日本では、古くからし尿を肥料として活用する文化がありました。し尿には、作物の育成に有効な成分が多く含まれており、下水処理場で処理をした汚泥を脱水し、堆肥化すると有効な肥料になります。「下水」にはマイナスなイメージもあり、これまであまり利用されてきていませんが、世界情勢が不安定化する中で、これまで輸入に頼ってきた化学肥料に代わる肥料原料として注目が集まっています。

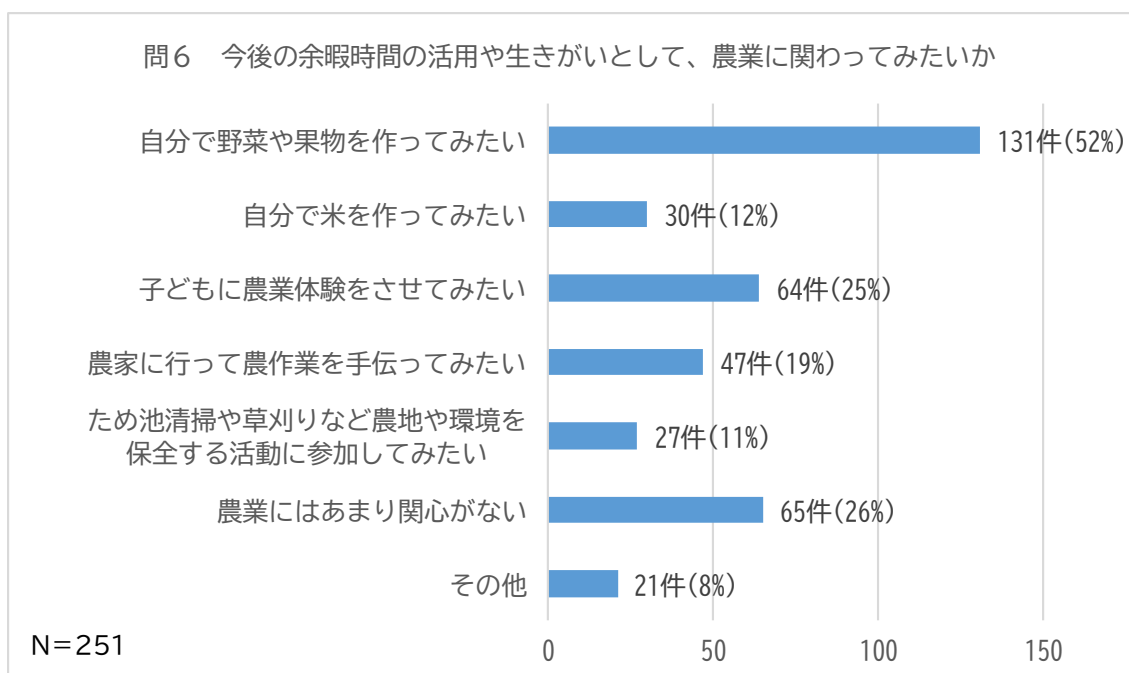
	項目	件数	%
1	安全性に問題があるのでやめるべき	11	4%
2	科学的に安全性に問題がないと完全に証明できれば提供してもよい	188	75%
3	何となくイメージが悪いのでやめるべき	19	8%
4	特に問題ない	28	11%
5	その他	5	2%



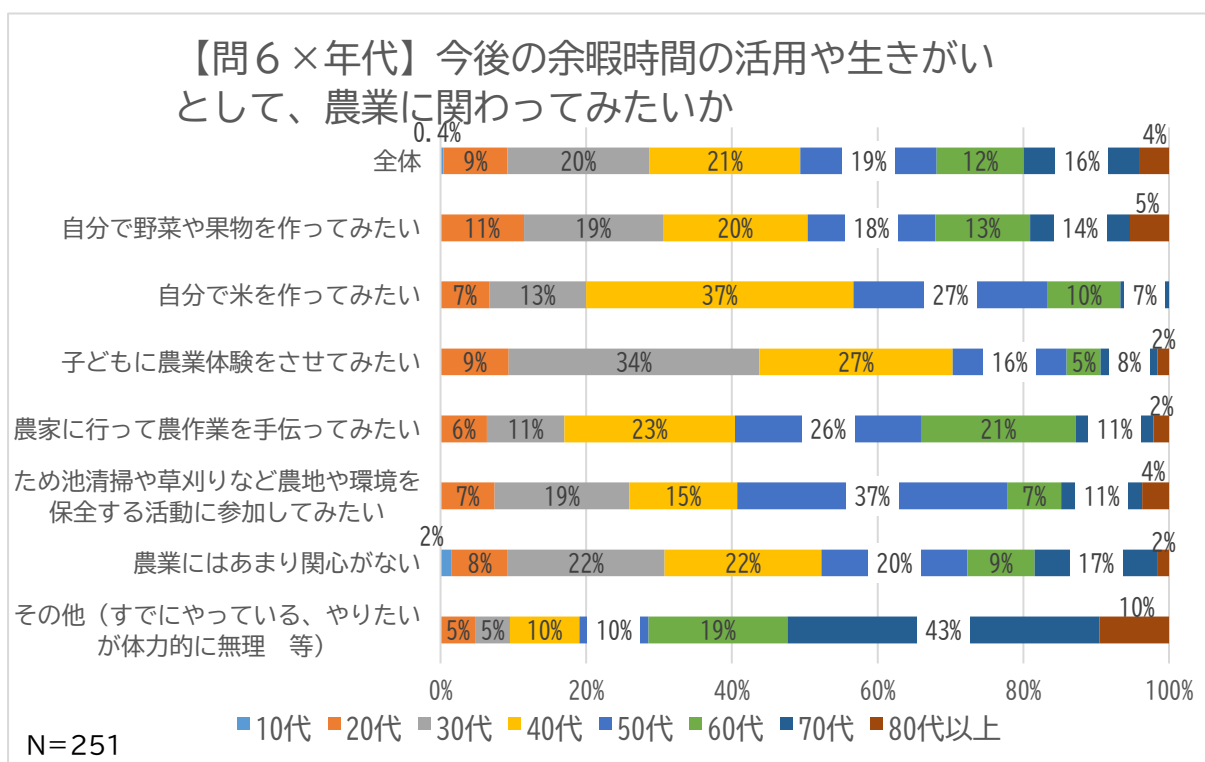
■農業体験についてお聞きします

Q6 あなたは今後の余暇時間の活用や生きがいとして、農業に関わってみたいですか。（いくつでも回答可）

	項目	件数	%
1	自分で野菜や果物を作ってみたい	131	52%
2	自分で米を作ってみたい	30	12%
3	子どもに農業体験をさせてみたい	64	25%
4	農家に行って農作業を手伝ってみたい	47	19%
5	ため池清掃や草刈りなど農地や環境を保全する活動に参加してみたい	27	11%
6	農業にはあまり関心がない	65	26%
7	その他（すでにやっている、やりたいが体力的に無理 等）	21	8%



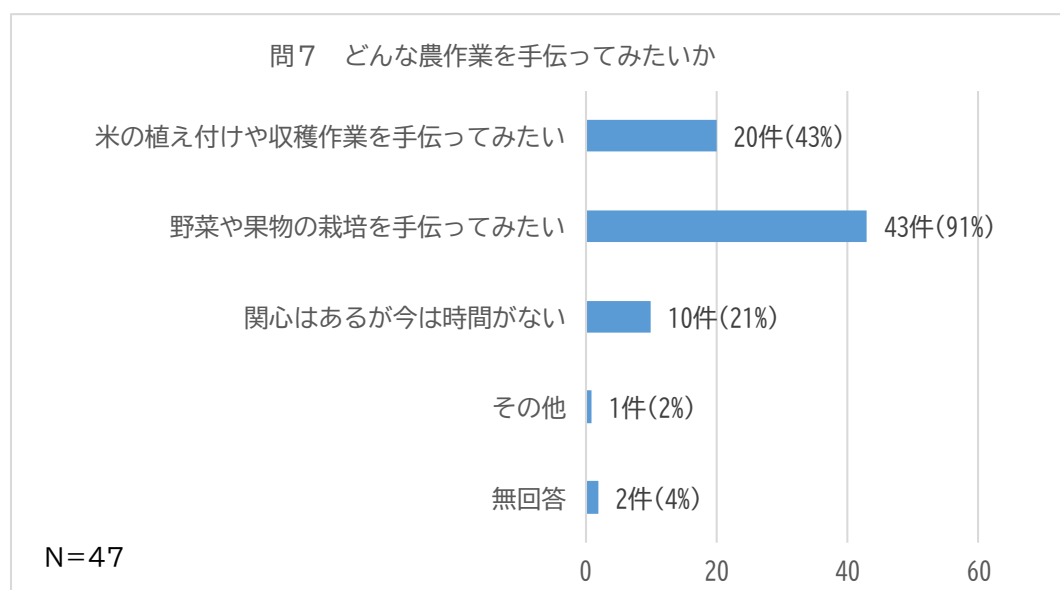
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
自分で野菜や果物を作ってみたい	0	15	25	26	23	17	18	7	131
自分で米を作ってみたい	0	2	4	11	8	3	2	0	30
子どもに農業体験をさせてみたい	0	6	22	17	10	3	5	1	64
農家に行って農作業を手伝ってみたい	0	3	5	11	12	10	5	1	47
ため池清掃や草刈りなど農地や環境を保全する活動に参加してみたい	0	2	5	4	10	2	3	1	27
農業にはあまり関心がない	1	5	14	14	13	6	11	1	65
その他（すでにやっている、やりたいが体力的に無理 等）	0	1	1	2	2	4	9	2	21



Q 6で「農家に行って農作業を手伝ってみたい」を選んだ方にお伺いします。

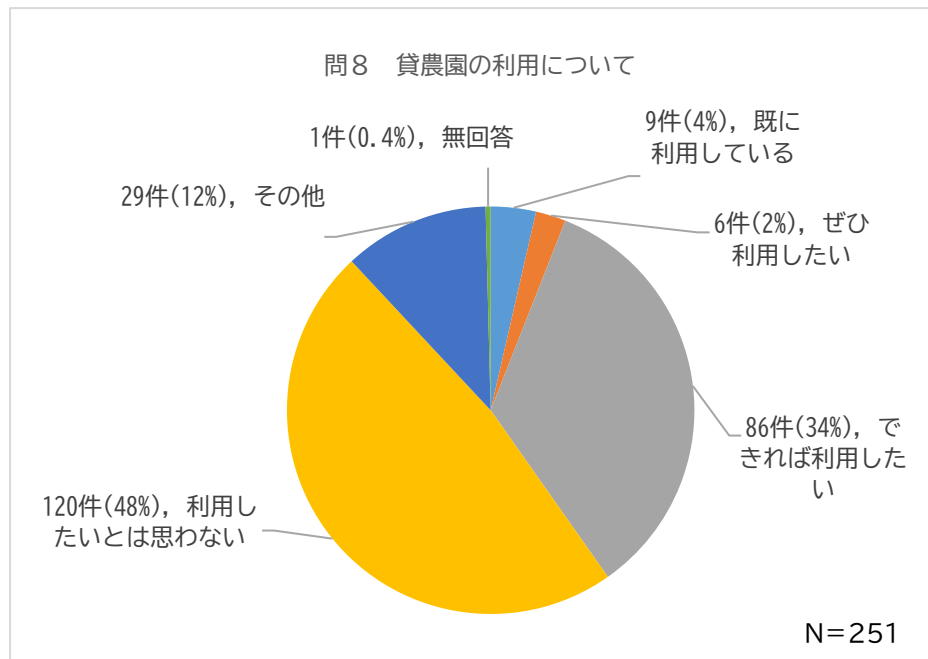
Q 7 どんな農作業をやりたいですか。（いくつでも回答可）

	項目	件数	%
1	米の植え付けや収穫作業を手伝ってみたい	20	43%
2	野菜や果物の栽培を手伝ってみたい	43	91%
3	関心はあるが今は時間がない	10	21%
4	その他	1	2%
99	無回答	2	4%

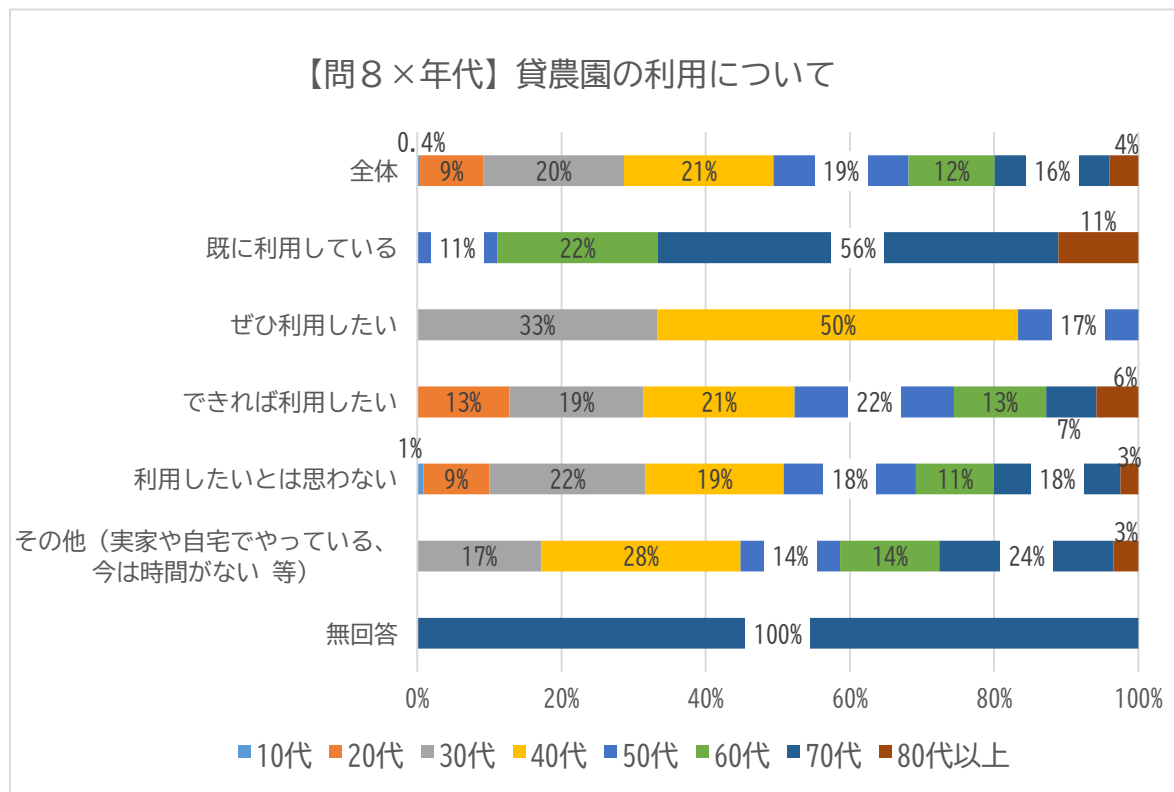


Q 8 明石市には営農組合や民間団体等が運営する市民農園がありますが、貸農園の利用についてはどう思いますか。（1つだけ回答可）

	項目	件数	%
1	既に利用している	9	4%
2	ぜひ利用したい	6	2%
3	できれば利用したい	86	34%
4	利用したいとは思わない	120	48%
5	その他（実家や自宅でやっている、今は時間がない 等）	29	12%
99	無回答	1	0.4%

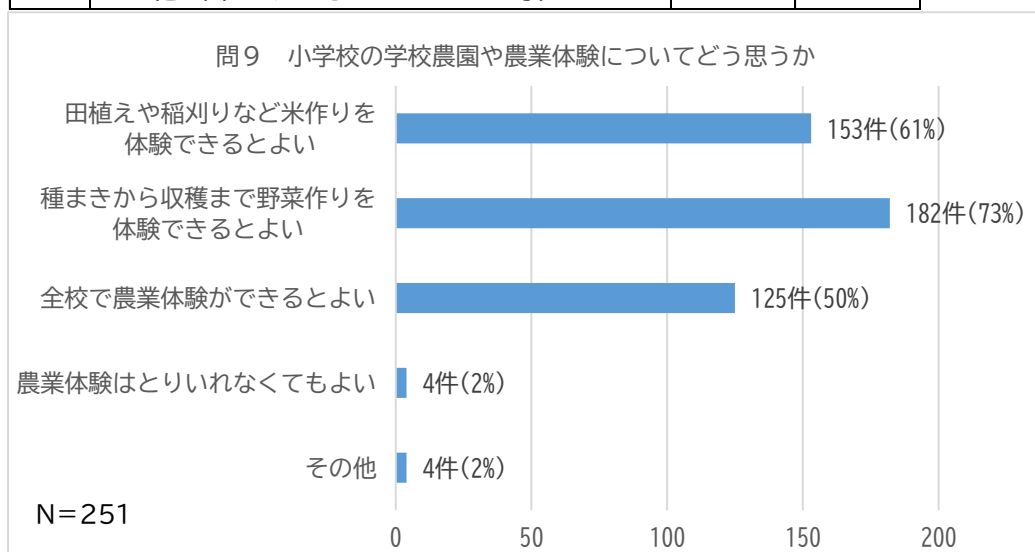


	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
既に利用している	0	0	0	0	1	2	5	1	9
ぜひ利用したい	0	0	2	3	1	0	0	0	6
できれば利用したい	0	11	16	18	19	11	6	5	86
利用したいとは思わない	1	11	26	23	22	13	21	3	120
その他（実家や自宅で行っている、今は時間がない等）	0	0	5	8	4	4	7	1	29
無回答	0	0	0	0	0	0	1	0	1

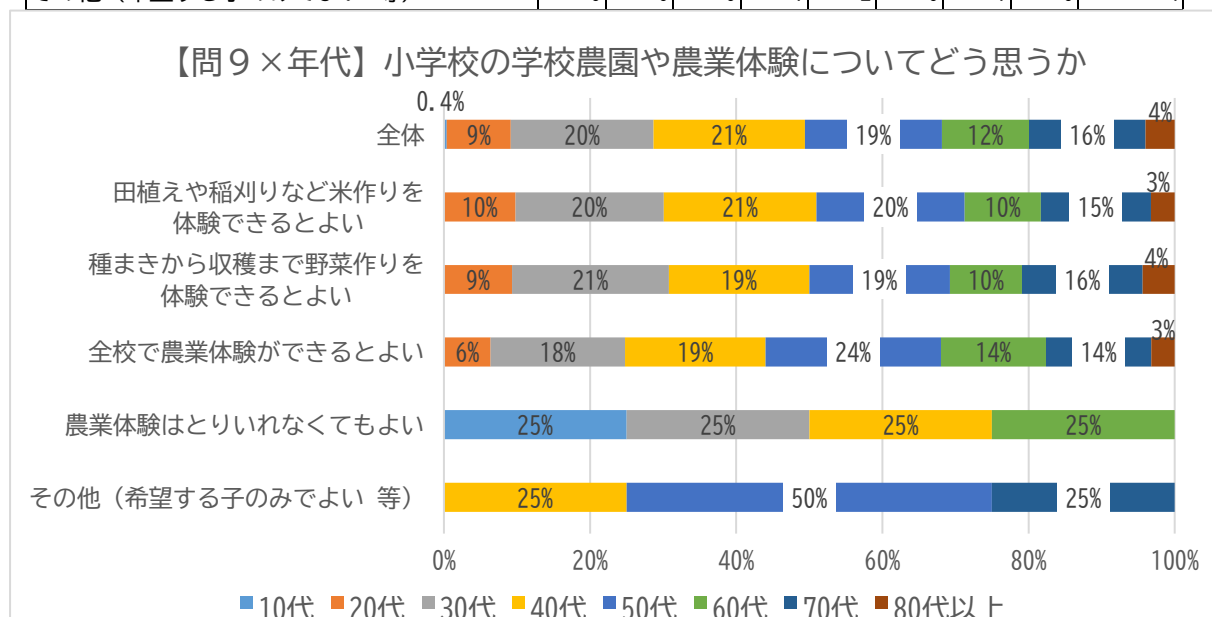


Q9 小学校の学校農園や農業体験についてどう思いますか。（いくつでも回答可）

	項目	件数	%
1	田植えや稲刈りなど米作りを体験できるとよい	153	61%
2	種まきから収穫まで野菜作りを体験できるとよい	182	73%
3	全校で農業体験ができるとよい	125	50%
4	農業体験はとりいれなくてもよい	4	2%
5	その他（希望する子のみでよい 等）	4	2%



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
田植えや稲刈りなど米作りを体験できるとよい	0	15	31	32	31	16	23	5	153
種まきから収穫まで野菜作りを体験できるとよい	0	17	39	35	35	18	30	8	182
全校で農業体験ができるとよい	0	8	23	24	30	18	18	4	125
農業体験はとりいれなくてもよい	1	0	1	1	0	1	0	0	4
その他（希望する子のみでよい 等）	0	0	0	1	2	0	1	0	4



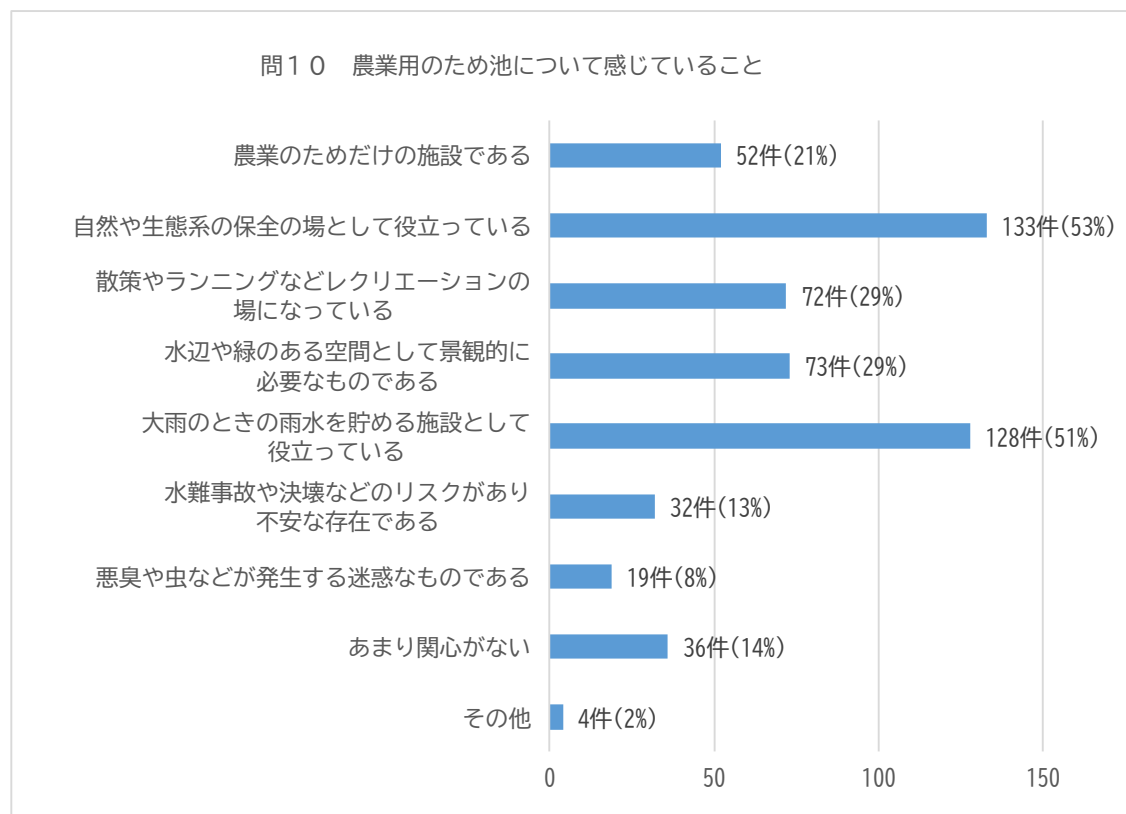
■農業用のため池についてお聞きします

明石のため池

明石市内には農業用ため池が 100 か所以上あります。ため池は、農業用水を供給する役割を果たすとともに、浸水被害の軽減など防災の役割や豊かな生態系や環境の保全など、さまざまな役割を果たすと言われています。また、明石市では、豊かな海を再生する取り組みとして、農業者と漁業者が連携し、ため池の底（砂、泥）に含まれる栄養分を海に流す「かいぼり」などの取り組みも実施しています。

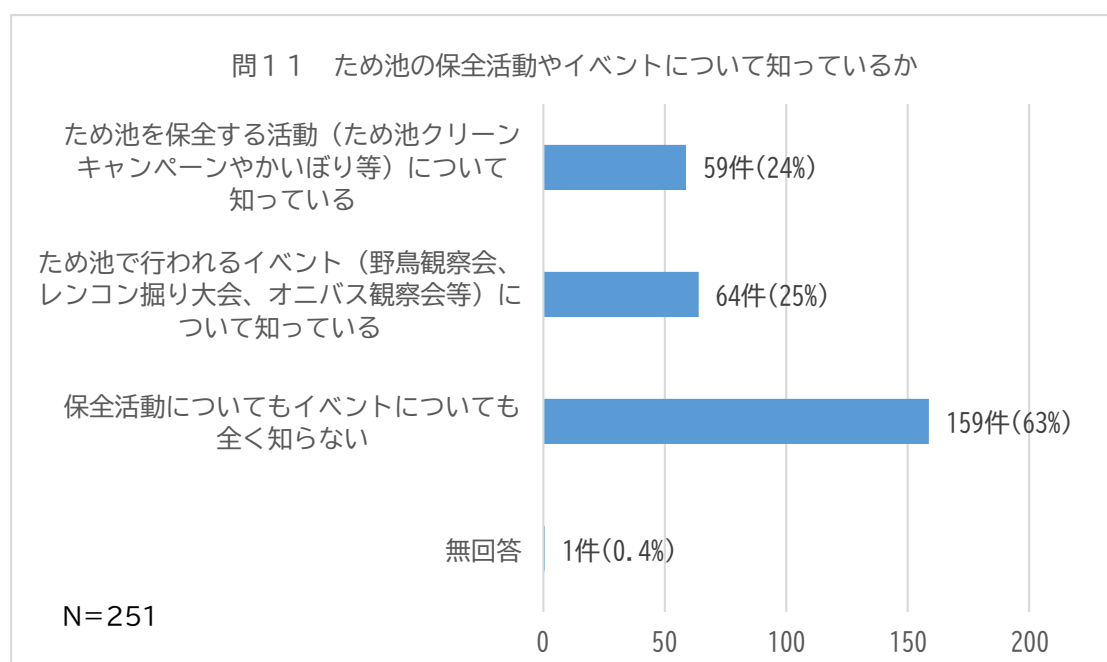
Q10 農業用のため池について感じていることを教えてください。（3つまで回答可）

	項目	件数	%
1	農業のためだけの施設である	52	21%
2	自然や生態系の保全の場として役立っている	133	53%
3	散策やランニングなどレクリエーションの場になっている	72	29%
4	水辺や緑のある空間として景観的に必要なものである	73	29%
5	大雨のときの雨水を貯める施設として役立っている	128	51%
6	水難事故や決壊などのリスクがあり不安な存在である	32	13%
7	悪臭や虫などが発生する迷惑なものである	19	8%
8	あまり関心がない	36	14%
9	その他（危険なので柵を高くしてほしい、釣り場として開放してほしい 等）	4	2%



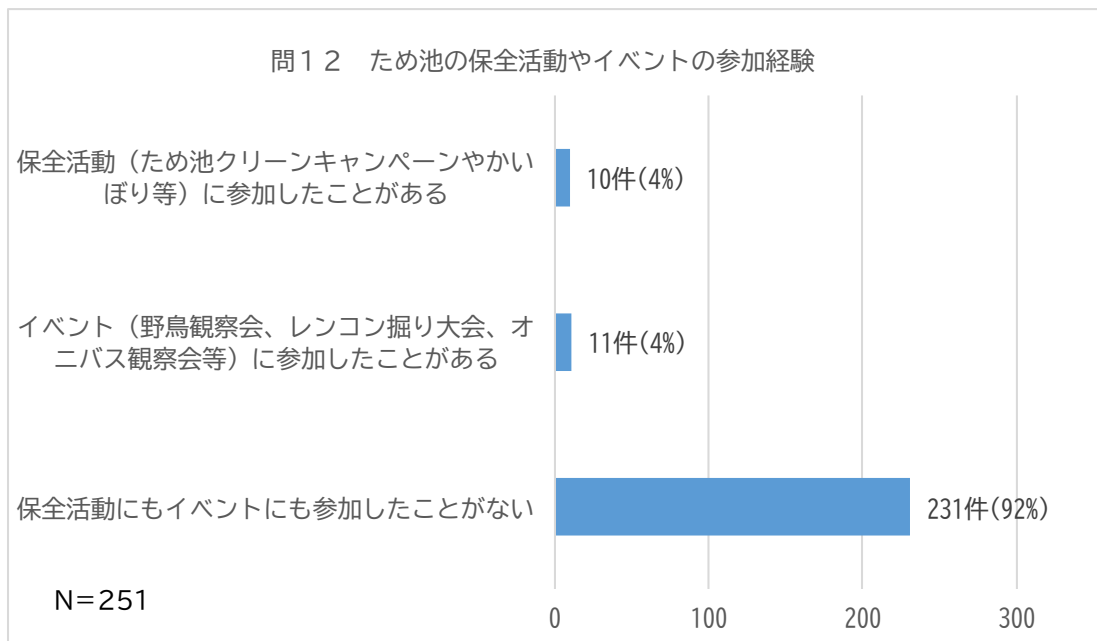
Q11 ため池では、農業者以外の人に参加する保全活動やイベントが行われています。下記のような取組を知っていますか。（2つまで回答可）

	項目	件数	%
1	ため池を保全する活動（ため池クリーンキャンペーンやかいぼり等）について知っている	59	24%
2	ため池で行われるイベント（野鳥観察会、レンコン掘り大会、オニバス観察会等）について知っている	64	25%
3	保全活動についてもイベントについても全く知らない	159	63%
99	無回答	1	0.4%



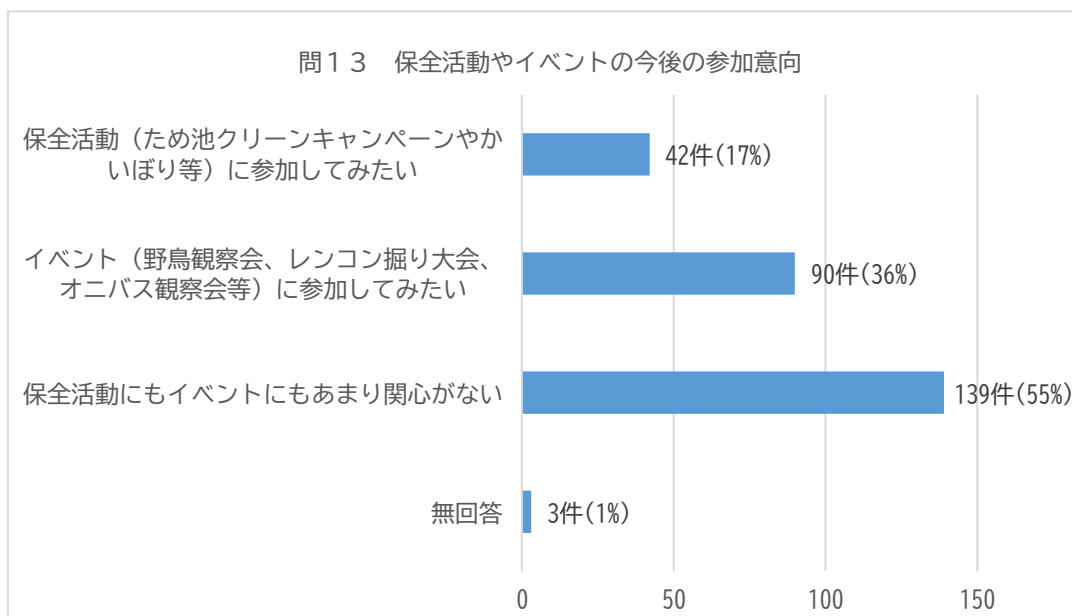
Q12 保全活動やイベントへの参加経験について教えてください。（2つまで回答可）

	項目	件数	%
1	保全活動（ため池クリーンキャンペーンやかいぼり等）に参加したことがある	10	4%
2	イベント（野鳥観察会、レンコン掘り大会、オニバス観察会等）に参加したことがある	11	4%
3	保全活動にもイベントにも参加したことがない	231	92%

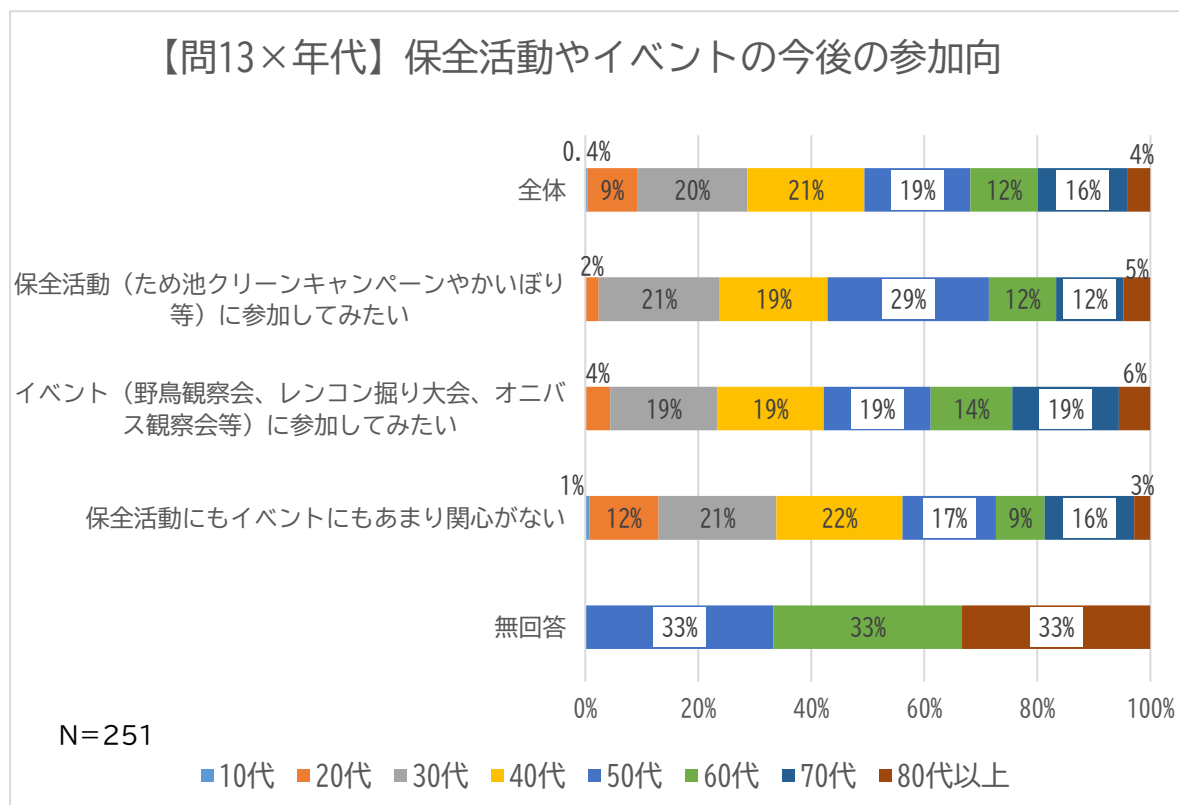


Q13 保全活動やイベントへの今後の参加意向について教えてください。（2つまで回答可）

	項目	件数	%
1	保全活動（ため池クリーンキャンペーンやかいぼり等）に参加してみたい	42	17%
2	イベント（野鳥観察会、レンコン掘り大会、オニバス観察会等）に参加してみたい	90	36%
3	保全活動にもイベントにもあまり関心がない	139	55%
99	無回答	3	1.2%



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
保全活動（ため池クリーンキャンペーンやかいぼり等）に参加してみたい	0	1	9	8	12	5	5	2	42
イベント（野鳥観察会、レンコン掘り大会、オニバス観察会等）に参加してみたい	0	4	17	17	17	13	17	5	90
保全活動にもイベントにもあまり関心がない	1	17	29	31	23	12	22	4	139
無回答	0	0	0	0	1	1	0	1	3

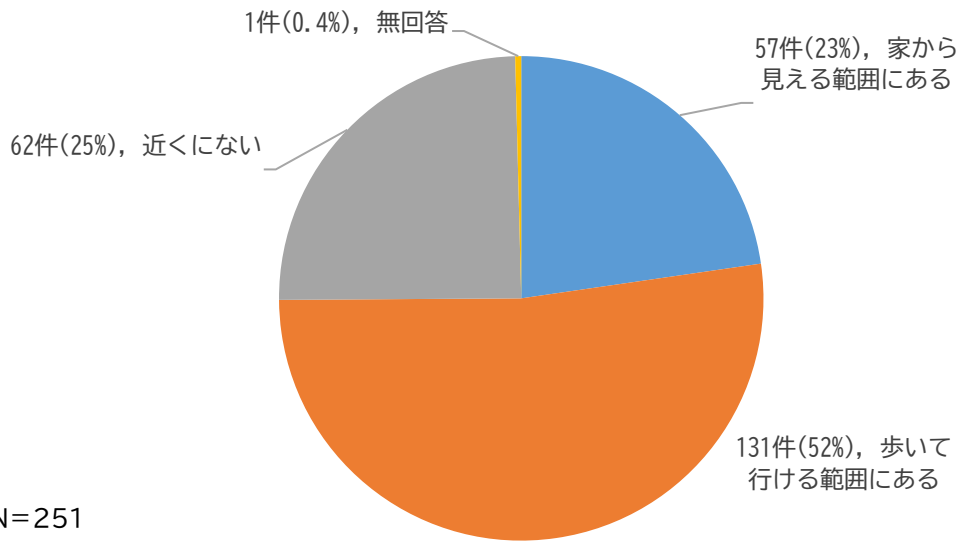


■明石市の農業とその役割についてお聞きします

Q14 家の近くに農地（田んぼや畑）はありますか。（1つだけ回答可）

	項目	件数	%
1	家から見える範囲にある	57	23%
2	歩いて行ける範囲にある	131	52%
3	近くにない	62	25%
99	無回答	1	0.4%

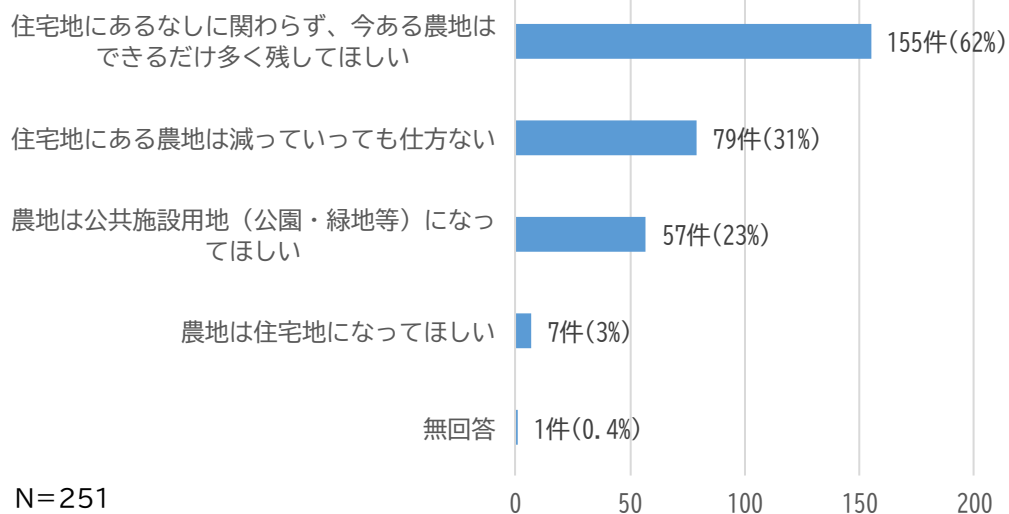
問14 家の近くに農地（田んぼや畑）があるか



Q15 明石市では、農地が年々減少する傾向にあります。あなたは都市の農地についてどのようにお考えですか。（3つまで回答可）

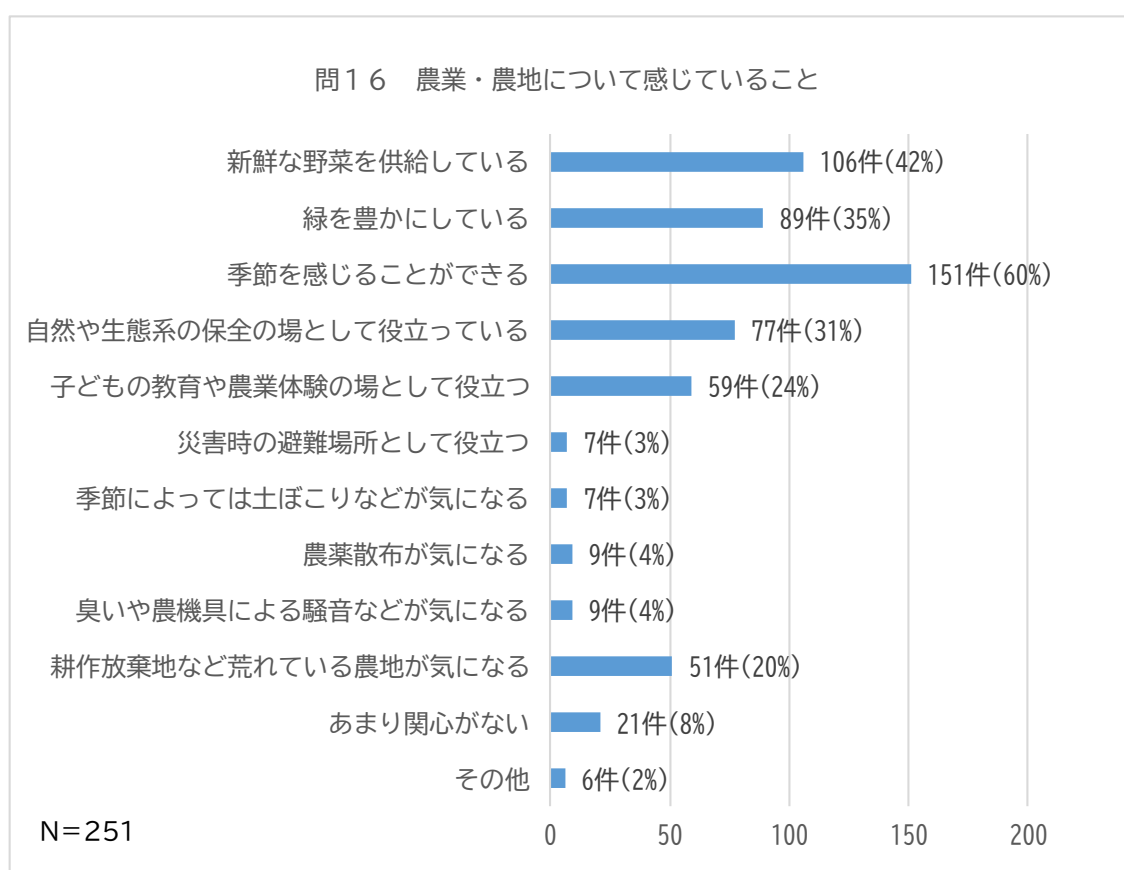
	項目	件数	%
1	住宅地にあるなしに関わらず、今ある農地はできるだけ多く残してほしい	155	62%
2	住宅地にある農地は減っていても仕方ない	79	31%
3	農地は公共施設用地（公園・緑地等）になってほしい	57	23%
4	農地は住宅地になってほしい	7	3%
99	無回答	1	0.4%

問15 都市の農地についてどのように考えるか



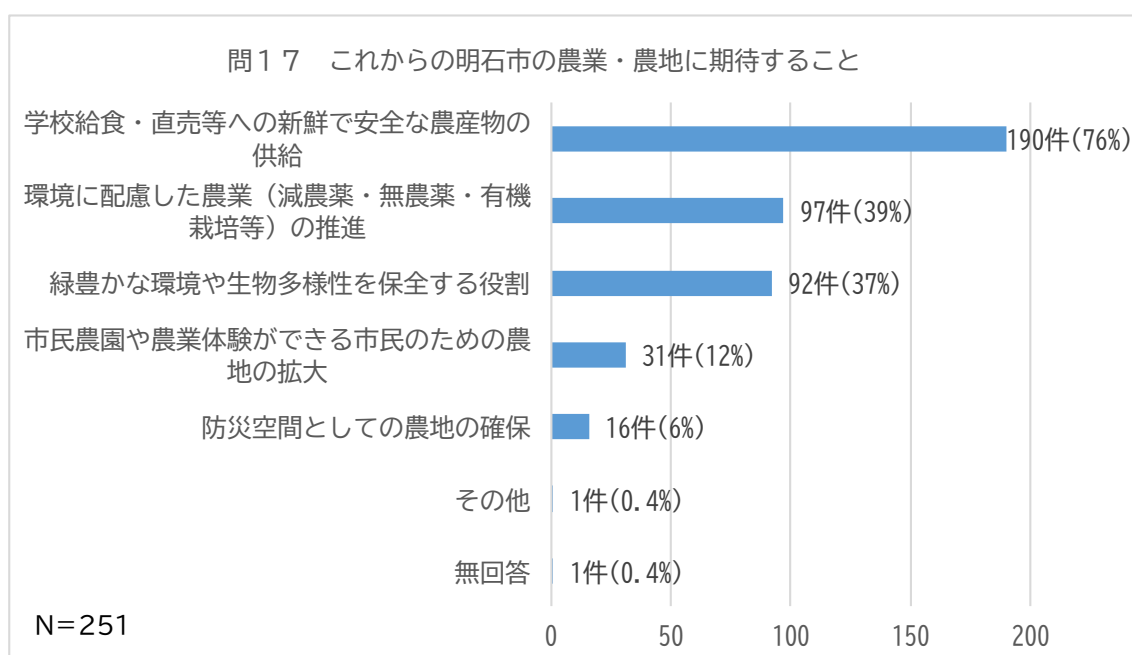
**Q16 あなたのまわりの農業・農地について感じていることを教えてください。
(3つまで回答可)**

	項目	件数	%
1	新鮮な野菜を供給している	106	42%
2	緑を豊かにしている	89	35%
3	季節を感じることができる	151	60%
4	自然や生態系の保全の場として役立っている	77	31%
5	子どもの教育や農業体験の場として役立つ	59	24%
6	災害時の避難場所として役立つ	7	3%
7	季節によっては土ぼこりなどが気になる	7	3%
8	農薬散布が気になる	9	4%
9	臭いや農機具による騒音などが気になる	9	4%
10	耕作放棄地など荒れている農地が気になる	51	20%
11	あまり関心がない	21	8%
12	その他（道路に泥を落とさないでほしい 等）	6	2%



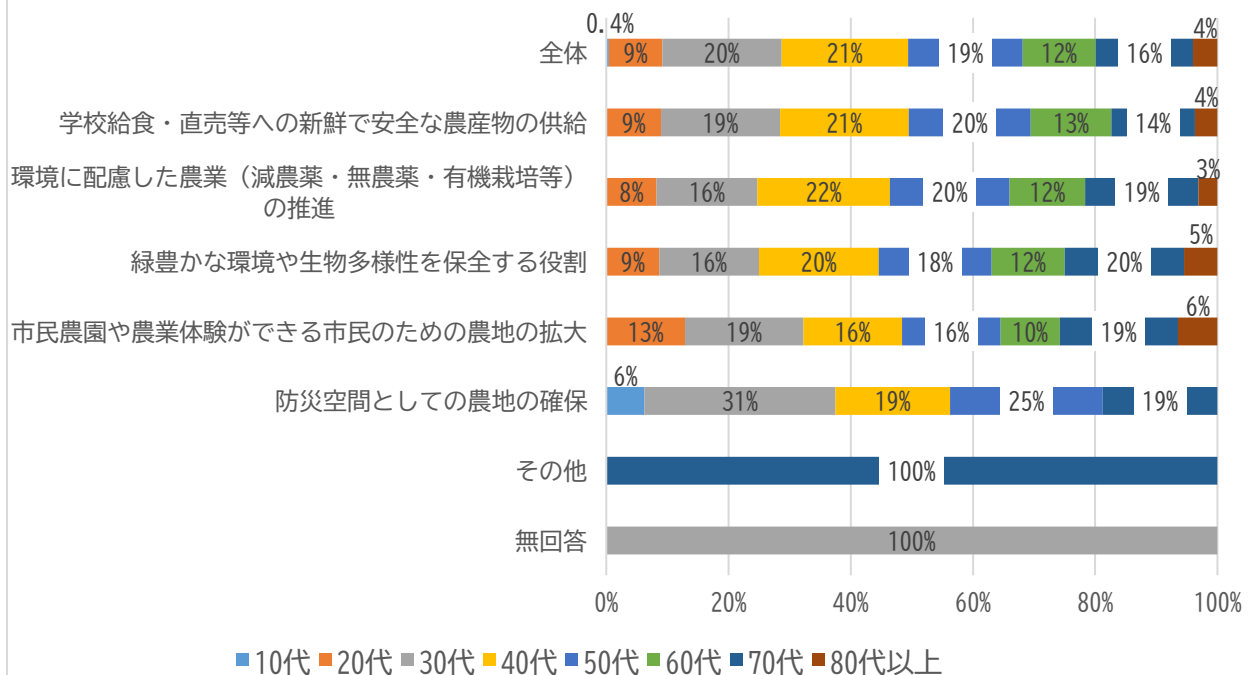
Q17 これからの明石市の農業・農地についてどんなことを期待しますか。
(2つまで回答可)

	項目	件数	%
1	学校給食・直売等への新鮮で安全な農産物の供給	190	76%
2	環境に配慮した農業（減農薬・無農薬・有機栽培等）の推進	97	39%
3	緑豊かな環境や生物多様性を保全する役割	92	37%
4	市民農園や農業体験ができる市民のための農地の拡大	31	12%
5	防災空間としての農地の確保	16	6%
6	その他	1	0%
99	無回答	1	0.4%



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
学校給食・直売等への新鮮で安全な農産物の供給	0	17	37	40	38	25	26	7	190
環境に配慮した農業（減農薬・無農薬・有機栽培等）の推進	0	8	16	21	19	12	18	3	97
緑豊かな環境や生物多様性を保全する役割	0	8	15	18	17	11	18	5	92
市民農園や農業体験ができる市民のための農地の拡大	0	4	6	5	5	3	6	2	31
防災空間としての農地の確保	1	0	5	3	4	0	3	0	16
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	1
無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	1

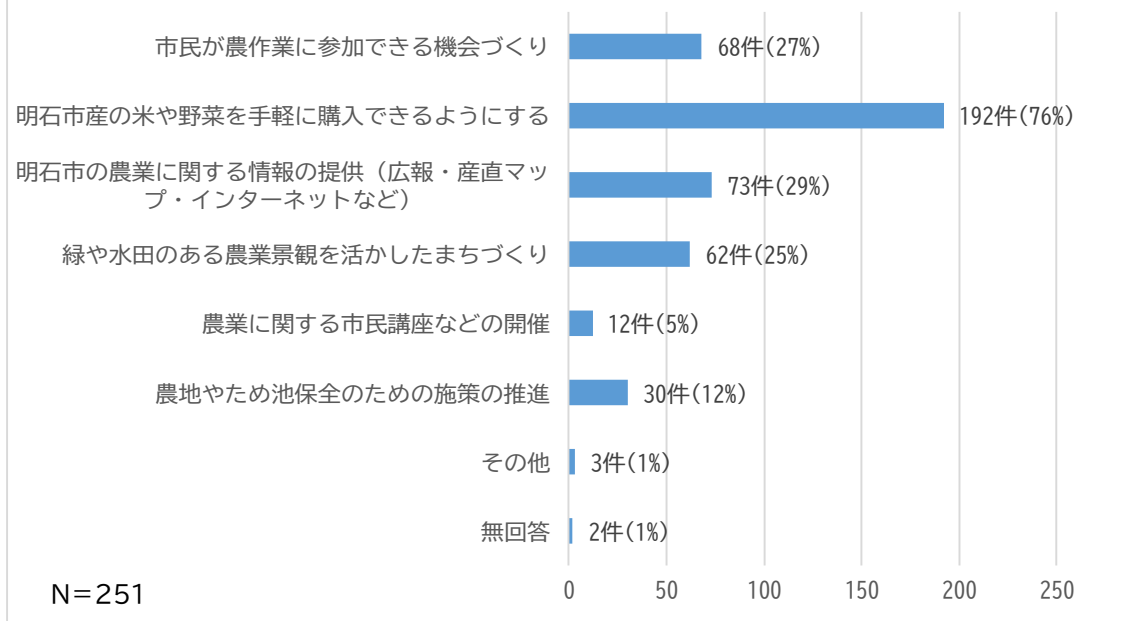
【問17×年代】 これからの明石市の農業・農地に期待すると



Q18 市民が農家とともに農業を育てていくために必要と思うことを選んでください。（2つまで回答可）

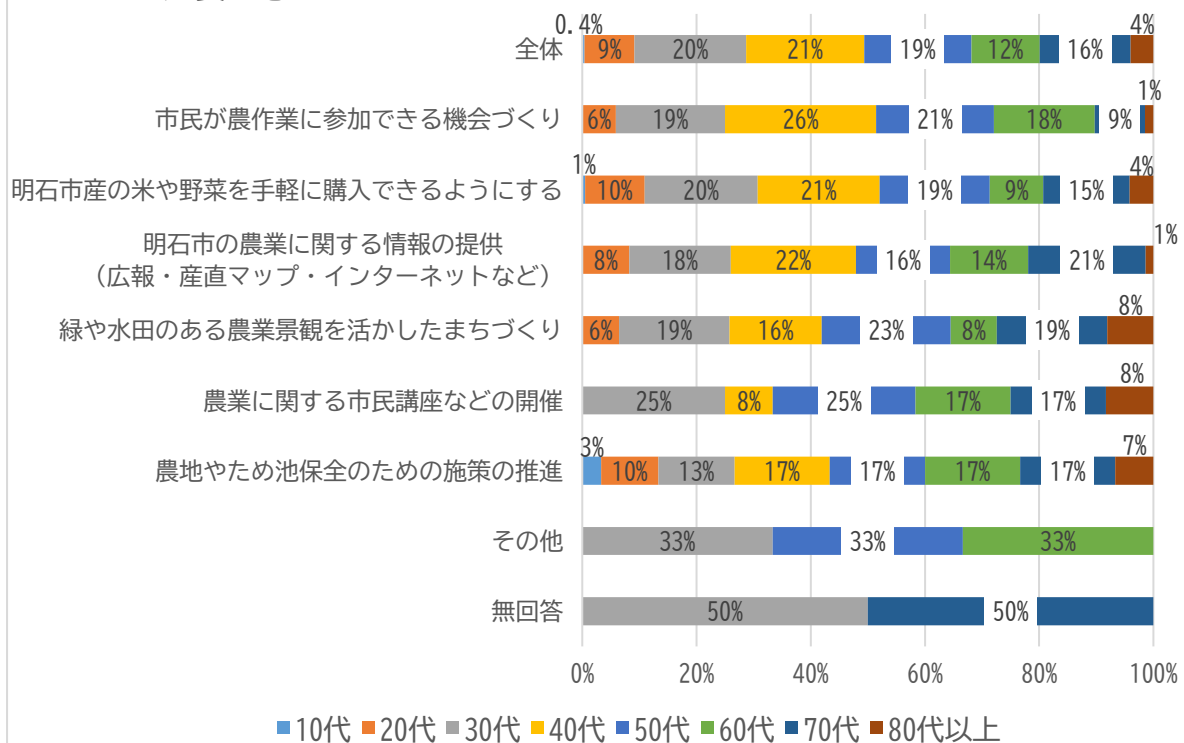
	項目	件数	%
1	市民が農作業に参加できる機会づくり	68	27%
2	明石市産の米や野菜を手軽に購入できるようにする	192	76%
3	明石市の農業に関する情報の提供（広報・産直マップ・インターネットなど）	73	29%
4	緑や水田のある農業景観を活かしたまちづくり	62	25%
5	農業に関する市民講座などの開催	12	5%
6	農地やため池保全のための施策の推進	30	12%
7	その他	3	1%
99	無回答	2	1%

問18 市民が農家とともに農業を育てていくために必要と思うこと



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
市民が農作業に参加できる機会づくり	0	4	13	18	14	12	6	1	68
明石市産の米や野菜を手軽に購入できるようにする	1	20	38	41	37	18	29	8	192
明石市の農業に関する情報の提供（広報・産直マップ・インターネットなど）	0	6	13	16	12	10	15	1	73
緑や水田のある農業景観を活かしたまちづくり	0	4	12	10	14	5	12	5	62
農業に関する市民講座などの開催	0	0	3	1	3	2	2	1	12
農地やため池保全のための施策の推進	1	3	4	5	5	5	5	2	30
その他	0	0	1	0	1	1	0	0	3
無回答	0	0	1	0	0	0	1	0	2

【問18×年代】市民が農家とともに農業を育てていくために
必要と思うこと



Q19 明石市農業の振興のために、意見やアイデアがあれば、以下の欄に自由にお書きください。

【イベント】

- 気軽に出来るものであれば、参加しやすいので、そういうイベントを増やして欲しい
- 親子や子どもが農業体験ができるようなイベントを開催する。（種まき、収穫、調理など最後まで体験できるとなおよい。）駅から離れたところでの農作業のイベントが多いので、公共交通機関（鉄道など）でいける場所での開催があると参加しやすいと思います。農業の経験がないので、もし近場で体験できるのであれば是非参加してみたいです。
- 子どもと一緒に農業体験できるイベントを開き、週末だけでも定期的に農業する人を増やせば、荒れた放棄地の活用にもなるのでは。副業でも良いので農業従事者の増加を期待したい。
- 一般の人参加しやすい農業体験。珍しい品種の野菜の栽培と一般への紹介の充実。
- 地元ではなく引っ越してきたため、農地が思っていたより少ないことに驚いた。近くに農地貸出があったが、使用料が高かったため検討できなかった。補助やイベントがあれば使用する機会になるかもしれない。
- 明石市のイベント、お祭りなどで人が集まる時にお野菜購入ブース。子供達が

参加できる野菜収穫体験（きゅうりや、ピーマンなど掴みやすく呑み込み事故がおこらなさそうな野菜）（軍手やエプロンなど服や手が汚れないようなものもあれば参加者が増える？）（手洗い場などあればなお良い）明石の野菜を使った料理を手軽に食べられる屋台（片手で食べれるような）子供でも飲みやすい野菜ジュース（レシピ付き）お野菜デザート（例 にんじんクッキーや、夏場はかき氷やアイスクリームなども）一つのお野菜を、皮からヘタまで全てを様々な調理方法で食べれる。という事を紹介する試食コーナー。腐りにくい保存方法の紹介。日持ちする料理の紹介。家庭菜園用の苗、タネ販売コーナー（肥料や、鉢などは重かったり危ないので無しで）お金を出し入れが大変なので、チケットにしたりやスタンプラリーのような厚紙に、参加する項目がのっており一つ一つスタンプをもらいながら参加して、スタンプが溜まったらお野菜の詰め合わせと交換できるようなシステムも楽しそうかなと思います。このような感じの見て食べて楽しみながら、明石のお野菜を手軽に楽しめるブースがあれば大人も子供も楽しそうだなあと思います。野菜が苦手な子供が、保育園でもちらほら見かけるので、自分たちが触れたり、調理や収穫ができれば食べるきっかけに繋がっていいなと思います。土などで汚れることを気にされる方や、たまたまふらっと来られた方なども参加できるようなシステムがあれば良いなと思います。小さい子供達の衝突事故や迷子などを防ぐ。待ち時間を少なくして熱中症やストレスを防ぐために時間帯で分けて、混雑を予防するのもいいなと思います。ネット予約で簡単に参加予約ができるシステムもありがたいと思います。明石の肉フェスのような、明石さん家（産地）の野菜フェスがいつか毎年の恒例行事になり明石産の野菜をたくさんの人たちが食べてくれますように。いつも頑張りとお野菜を使って下さっている農家の方も、積極的にイベントなどに来て見て頂いてみんなが笑顔で野菜を食べる姿を見てエネルギーにもなれば良いなと思います。

【施設・場所づくり】

- 明石産の農産物が購入でき、その食材を使ったカフェなど飲食店が数店舗入った施設があると嬉しい（大型駐車場完備）
- 市民参加の米作り、野菜作り等が出来る場所づくりをつくる
- スーパーに売っている野菜よりファーマンで買う野菜のほうが鮮度が良く長持ちもします。明石のフレッシュ、モアを訪れる度に規模が小さくいつも売れ残りしかないのが残念で、稲美町迄よく買い出しに行くようにしています。明石にもっと施設があればと思います。限られたスーパーには明石産コーナーがあるのでスーパーに行けば必ずそのコーナーから物色しますが…少ないです。地元産を食べたいのですが、なかなか手に入らないので店を増やして欲しいです。
- 駐車場があり、車で訪れることができる直売所が増えると嬉しい。
- できるだけ地元の農作物を食べたいのですが、なかなか気軽に行ける範囲で購入できる場所がありません。明石駅周辺で定期的にマルシェを開いて欲

しいです。海外のウィークエンドマーケットのような、小規模でも良いのでクオリティを高くして、旬の野菜や果物を農家さんと近い距離で購入できる機会を増やして欲しいです。宣伝の仕方なども小さなお子さんがあるご家庭などにも口コミで広げて貰えるように、SNSも充分に活用して頂きたいです。

- ビルや建物の屋上を利用した田畑を作り、学生の体験学習等に活用する。また、同所にベンチ等を設置し、休憩出来るような施設として活用する。
- 明石市が一括して貸農園の窓口となれば申し込みしやすく、家庭菜園を実際にやってみる人が増えるのではないかと思います。
- 貸農園を増やす安価で
- 妻と子供が神戸の「あいの里」のイベントに行き、野菜の収穫体験や農業を考える講演会、映画の上演会観て食と農業について真剣に考える貴重な機会となったようです。魚住から大久保の明姫幹線沿いの広い農地の一面に、あいの里のような皆が集える場ができ、農業を考え楽しみ、若い方の農業参加の機会の方ができたら嬉しいと言っておりました。
- 道の駅など、明石の農産物や水産物など特産物を扱う施設があっても良いと思います。駐車場や子供が遊べる公園なども併設して、活気がある施設になると明石で取れる魚や野菜をもっと身直に感じられると思います。
- 近くに貸農園を作ってほしい(現在神戸市の貸農園を利用中)
- 貸農園が近くにあればいいのと思う。すぐに宅地にせず、貸し出してほしい。

【就農支援、法人化等】

- 新たに農業を始める方の為に低率の融資制度
- 明石市が新しい農業ビジネスを企画、提案して新規参入者(企業、個人)の誘致を広報、SNS等で発信してもらえたらと思います。食糧自給率の低いこの国を農業のみならず、それらに関わる産業を各自治体が協力し合って盛り上げていって貰えたら嬉しいです。
- 農地は今後必要なので 20-40 代の農家の方に補助金を出すか、納税を一部免除するなどの待遇を図るべきと考えます。また明石産の野菜について何らかのご当地物があれば(京野菜のような)それをブランディングする事も必要だと思います。
- よくあるお話ですが、個人事業での収入の不安定さから、就業意欲が乏しくなるため、法人経営により雇用することで収入の安定化を図り、また法人が共同して明石のブランド化を進めることが必要だと思います。複数の食材での共通のブランドを作って、そこに何かの物語があると楽しいと思います。
- 市と JA が協力し、会社を設立して、組織的に行う。若者の雇用にも役立つのでは。
- 若い人が参入しやすい環境が必要。株式会社方式とか、休耕地は半強制的に優良な会社に、貸与出来るようにするとか、また、販路も自由に選択出来るとか、自給率を上げれる立体的工場での栽培とか、規制を緩めることで安価

で消費が伸びる等々の行政が必要。企業の監査は忖度なく徹底する…羅列して申し訳ありません。

- 行政が耕作放棄地を買い取って新たに専業農家になりたい人を育てるような取り組みを考えてほしい。

【食育】

- 明石の給食は野菜も多く、献立が豊かです。給食でこれからも明石の野菜を取り入れてほしいです。地産地消で、農家の方を応援していきたいです。
- 若者が少ないので後を継ぐ人がいない。小学校でも定期的に農業体験を取り入れて関心を高めてほしい
- 小学校でコメ作り等の授業をしてはどうでしょうか。
- 明石は子供を育てる場所に力をいれ人口が増えています。保育園や学校にイベントとして農業体験を取り入れ自然に触れる機会を多くしていくのが良いかと思います。
- 農家さんの高齢化などで雑木林くらいになってもほったらかしの土地があり勿体無い、手伝いたいひともいるとおもう。小中学生の給食に役立つといいなあと思います。出来れば低農薬や有機野菜作物を子どもたちに食べさせてあげたいです
- 子供が幼稚園～小学生の時に体験する「芋ほり」や「朝顔・ミニトマト・オクラを種から育て観察し絵日記に書く」など、小さい時から自然に接しながら農家や農業についての体験学習はいいですね。中学生には田植えや稲刈りを農家の方の指導で体験するのもいいですね。また、この時は農家の子供がみんなのリーダーとして活躍します。難しくもあるけれど喜びも大きいのでは！大人になっても残る楽しい思い出となりそうです。
- 小学生の段階でお米がどうやって作られて、自分達がどの様にして購入し食べているかを作る段階から一貫して体験させてもらえたら嬉しいです。回覧板の紙媒体ではあまり意味を感じていなく、参加のお知らせをLINEやこのGoogleアンケート等で発信、配信してくだされば30～40代は見ると思います。また明石産農産物をどのスーパーならよく購入出来るかはだいたい主婦ならわかると思いますが、中々出回っていません。明石のりも、明石鯛も大好きだけど高い。地産地消は難しいでしょうか。神戸南のイオンで明石産のお魚をよくみます。明石の高校生や中学生さん達が大人に農業を聞いて作り、小学生達にまた教えて～を全校でしてくれたら嬉しいです。
- こどもたちが人として成長するためには植物や生物に触れて地球の自然の本質を体験することは知的な学びの前に必要なことだと感じています。・農業につながる食は早い、安い、簡単、便利、流行などの時代の変化に振り回されずにもっと未来に目を向けて本当に必要なことは何かを選択する時ではないでしょうか。地産地消で作物を消費できることはSDGSにつながると思います。・明石市で若い人が農業を仕事として携わりたくなるよ

うな仕組みづくりや高齢化した現農家の後継者につなげる活動やシステムづくりも市や県、国の役割だと思います。新しいことも取り入れながら守るべきものは残していく。・作物や食べ物に対する誠実さを生産者と消費者の間で取り戻すために、大人と子どもと一緒に考える機会やチャンスを増やすことができるイベントや広報活動または場所が増えることを希望します。・誰かにメリットがある対策ではなく市民が豊かになる未来のための施策が必要。例）・田植えや収穫の時期は手伝いがしやすいように企業にも休暇を取れるよう働きかける。・仕事が見つからない人と人手不足の農家をつなぐ。農家へ行くまでの交通手段を用意する。・空き家、空き地での地域菜園の推進。空き地と地域を繋ぐ。・菜園に日々通うことで健康促進につながる。・未就学児・小学生・中学生の農業体験・作物だけではなくそれに関係する農薬、肥料、養蜂やビオトープなど自然循環の学びなど。

- 子供達への農業に携わる機会を設けること

【ブランド化】

- 明石市ブランド無人販売作って欲しい
- なにか1～2品関西または全国ブランドにする努力をする。
- 知名度を上げること。身近に感じられて農作物を簡単に手に取りやすい状況を作ることが大切だと思う。
- 明石ブランドの野菜や、それを使った料理について情報発信してゆくのが良いと思う。
- 田植え前の泥リンピック大会や、明石ブランドの農産物、なんかがあれば面白いと思います。
- 明石市特産（ブランド）、マイナーな野菜の栽培、プラスアルファの価値をつけるなどしないと普通の農業は明石の地域性から廃れるだけだと感じる。研究機関等との連携やスマート農業など次世代農業で近代化することで住宅地との調和を保つのもひとつ
- 水産物に比べて明石といったらこれというような農産物がパッと思い浮かびません。明石産のものにはマークやキャラクター等を付けて売るなど、何か分かりやすい特徴をだすことで農業への関心も高まるのではと思います。
- 何かしらコンセプトを持って取り組むことが良いと考えます。例えば有機農法のみで行うとか無農薬だけで行うとか。あと、明石ならではの農産物を決めて積極的に栽培していくとことで特産品を生み出すことも良いかと考えます。その他、農業に携わる方への優遇措置は必要かと思います。市として農業を活性化させたいのか耕作地を維持保全したいのかどちらかが計りかねますが、労働人口を確保するための措置は検討する必要があると思います。
- 清水いちごのブランド力をもっとあげる。

【ボランティア・アルバイト】

- シニアは時間も余力も体力を持て余している。ボランティア参加の発信、勉強会などをもっとして行く事により 振興の助けになるのではないでしょう。
- ボランティアで作業に参加して、お礼として収穫物を分けてもらう、有償ボランティア制度などがあれば嬉しい。
- 農業に市民が触れて体験できる機会を増やし、就農のサポート体制を作ってはどうか。
- 会社勤務だといきなり農業はハードルが高いが月に数回、週に数回なら時間が取れる人を集めて持ち回りで参加できる組織などあればいいのと思う、そこで得た作物などを販売した資金で利益など発生し賃金として分配できれば実際に農作業を主軸に生活していこうなどの足がかりになると思う。
- 興味があってもできない。というのが正直なところ。明石市で作られる農作物も、あまり知らないのかもしれませんが。親戚に誰かいれば分かる事もあるでしょうが。近くの田んぼを見て、少しやらせて欲しいな…と思うこともあります。知らない人だし、言えません。農業って、その道の人しか入る事が出来ないイメージです。仕事もあり、こちらの都合だけでは申し訳なく思いますし。手の空いている日に、お手伝いできる（農業に参加）場があれば良いのにと。素人なんで、出来る事も限られるかもしれませんが…。させて頂ける内容で良いんで。いま、流行っているスキマ時間にバイトできるアプリがありますよね？農家さん達が、必要な内容を掲載してもらい、興味があるものに申し込みして…。みたいな。それぞれの農家さんが、何を作っていてどこに出荷販売していて…と情報があれば、もっと愛着が湧くと思う。うちの子も体験して、興味が「将来の夢」になってもいい。知ってもらふ事って、大事かと思ひます。知らない事ばかりなんで勝手な発想ですが。
- スキマバイトアプリなどで、農家のお手伝いの仕事をたまに見つけます。（市外も含む）農業系のバイトもすぐ埋まっていますが、車がないと行けない所がほとんどなので、人手が足りない時は、主要駅などから補助などをして送迎を出せば、車がない人や学生さんなどが集まるのではないかと思います。

【その他】

- 農地集約等で大規模化による効率化を出来ないでしょうか。
- 大規模消費地が近隣にあるので供給出来る大規模農地を作る方法が必要と思う
- 年々、田畑は減少していますが、結構 休耕地 も多いと思うので それを活用するのを必要だと思う。そういう土地を市民に解放すべきではないだろうか
- 新しく農業に参加する人が増えるように、情報公開をしてほしい
- 農業について、皆が関心を持てる様な市としてのアピールを積極的にして

行けば良いと思う。

- 私は、3年前から明石市に妻とともに居住しています。私の出身は、高砂市ですが、明石市に住み始めて最初に感じたのは、「住みやすい街」だということです。以前から私は、明石市は、トリプルスリー政策や、各振興事業により、住みやすい街を目指してる事は、知っていましたが、自信が住んでみて、実感することが出来ました。また、日頃、近くのスーパーに買い物に行きますが、明石市の農家で作られた野菜等が、沢山売られており、夫婦共々すごく美味しく頂いています。まだ私達は、明石市に住んで間もないですが、今後もずっと明石市で生活していきたいと考えています。
- このところとくに物価が高いので、野菜なども綺麗なものを安く買う視点で買い物していて、正直あまり明石産とかまでは見ていない。（国産か中国産かは見るものの）とはいえ、私のように一人暮らしであまりお金がかからない人の場合は、食費も知れているので、明石産のものを買うことで明石の農家さんの助けになるとか無農薬や有機栽培の良さを実感できれば、少しぐらい高くても買うと思う。農業の振興活動は今もされているのかもしれないけど、どんな活動があるのか全然知らなかったの、目に触れる機会が増えれば興味も持つようになると思う。
- 自給率を向上するためにも、国産である作物、農業の大切さを市民に知ってほしい。農業を営む人に手厚い補助をしてほしい。地産地消などの活動をみえる形にしてほしい。明石の子供たちが作った作物が出来れば、人気が出るかもしれない。明石の自然をもっと掘り下げて紹介してほしい。
- 農業の世界はもともと住んでいた地元の人たちだけで回っていて閉鎖的なイメージがある。新しい人が入りやすい環境作りが重要になるのではないかなと思う。
- 明石に住んで30年以上経ちますが、年々、農地が住宅に転用され、ため池は埋められ、美しい風景がどんどん失われるのを寂しく思っています。20年ほど前には、農業をされている方個人でお野菜の無人販売をされている場所もいくつかあったのに、高齢になられたのか、お金も入れず持って行く人がいたせいか、近隣には全く無くなってしまいました。お野菜も果物も、しっかり熟するまで育てた地場産の物を食べる方が絶対に美味しい。なので、いつもできる限り近隣のもの(神戸市西区産、稲美産など)を購入しています。明石でも色んな野菜が収穫されているはずなのに、一体どこに行けば購入できるのか。無人販売で、旬のものを安く購入出来、食卓で季節を感じる楽しみが、いまはもう経験できません。農業の担い手が減っていることも、たくさんの方が明石に引っ越して宅地が必要なこともわかるのですが、農業の担い手さんにも引っ越してきてもらって、今ある風景を残してほしい。そして、明石の野菜がどこで手に入るのかをもっと教えてほしい。金ヶ崎のキャベツはどうしたら買えますか。明石市の広報誌、子育ても大事だと思うけど、安全で美味しい食卓のためにも、農業分野とか漁業分野のことももっと取り扱ってほしい。田んぼやため池は、大雨の

とき一時的に貯水できる大切な場所です。ゲリラ豪雨で排水が追いつかなる事態が今後ますます増えると思われるのに、そういった災害を少しでも遅らせることができる場所を潰すのはいかなものかと思います。住宅地は、住む人のいなくなった空き家などを放置させないように対策するなどして、農地を転用するにしても宅地以外(災害時に役立つ拠点となりうる公園等)にしてほしい。”

- 農地活用と障害者雇用を上手く連携出来ればいいなあと。農業で人手が欲しいときにお手伝いなど、、、。
- 農業機械のレンタル
- 明石産のお米や、野菜は、あまり、無農薬、有機栽培というのは見たことないです。JAで野菜はよく買いますが、とても綺麗な葉っぱです。農薬とかの基準は大丈夫なのかなあ？と、思いながら購入し、食べる前には水できれいに洗い流しています。

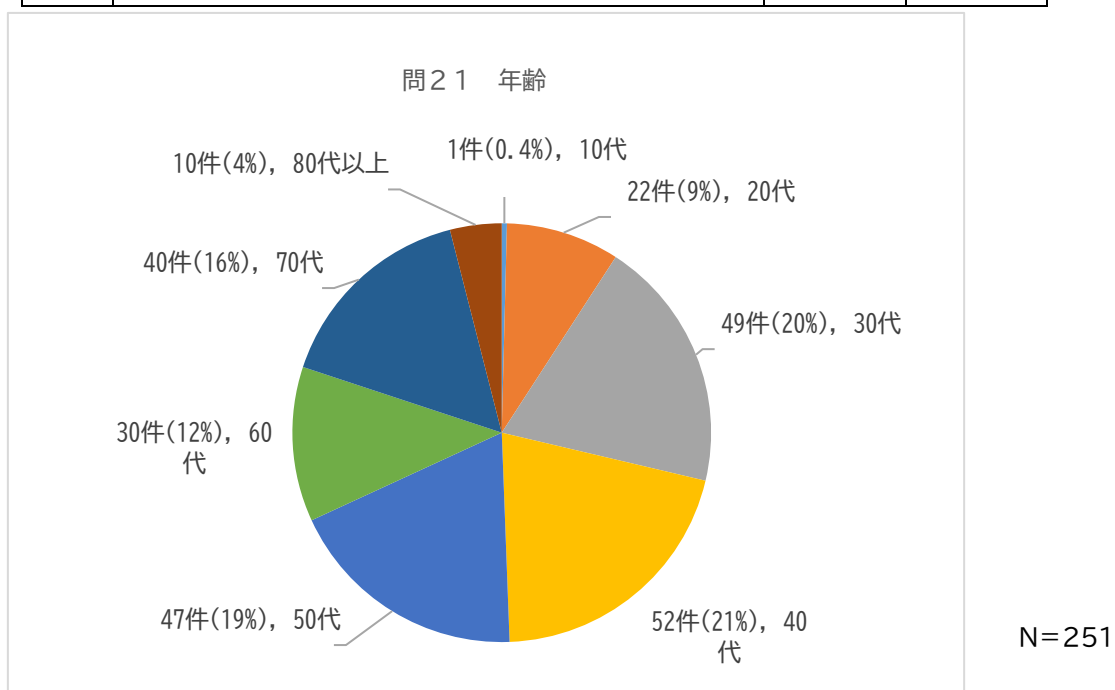
■あなたご自身についてお聞きします

Q20 性別

	項目	件数	%
1	男性	124	49%
2	女性	122	49%
3	その他	5	2%
4	回答しない	0	0%

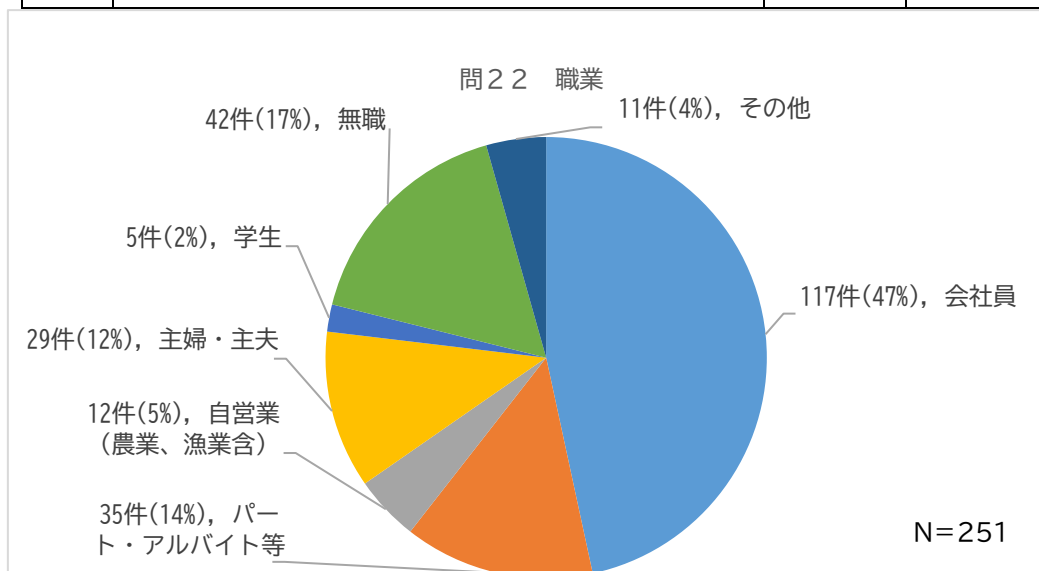
Q21 年齢

	項目	件数	%
1	10 代	1	0.4%
2	20 代	22	9%
3	30 代	49	20%
4	40 代	52	21%
5	50 代	47	19%
6	60 代	30	12%
7	70 代	40	16%
8	80 代以上	10	4%



Q22 職業

	項目	件数	%
1	会社員	117	47%
2	パート・アルバイト等	35	14%
3	自営業（農業、漁業含）	12	5%
4	主婦・主夫	29	12%
5	学生	5	2%
6	無職	42	17%
7	その他	11	4%



Q23 家族構成

	項目	件数	%
1	一人暮らし（単身世帯）	59	24%
2	夫婦のみの世帯	68	27%
3	親と子どもの2世代家族	97	39%
4	祖父母と親と子どもの3世代家族	8	3%
5	その他の家族構成	19	8%

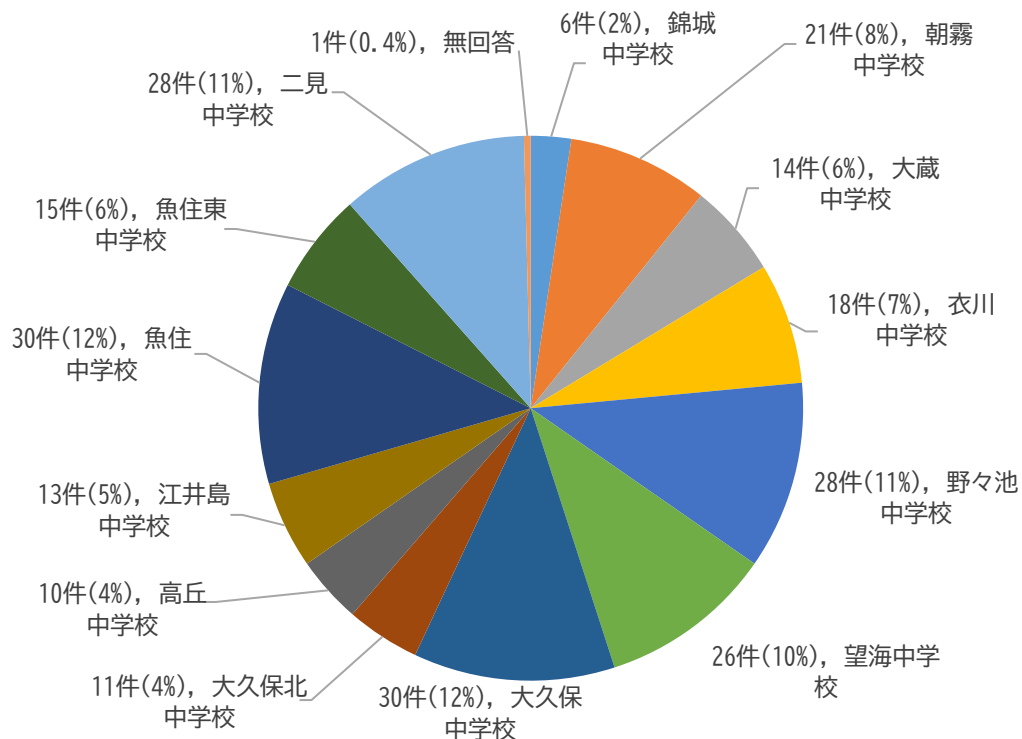
Q24 明石市居住歴（明石市に住んでいる年数）

	項目	件数	%
1	3年未満	31	12%
2	3年～10年未満	33	13%
3	10年～20年未満	41	16%
4	20年以上	145	58%
99	無回答	1	0.4%

Q25 お住いの中学校区（正確な校区が分からなければ、一番近くの中学校を選んでください）

	項目	件数	%
1	錦城中学校	6	2%
2	朝霧中学校	21	8%
3	大蔵中学校	14	6%
4	衣川中学校	18	7%
5	野々池中学校	28	11%
6	望海中学校	26	10%
7	大久保中学校	30	12%
8	大久保北中学校	11	4%
9	高丘中学校	10	4%
10	江井島中学校	13	5%
11	魚住中学校	30	12%
12	魚住東中学校	15	6%
13	二見中学校	28	11%
99	無回答	1	0.4%

問25 お住いの地区の中学校区



2. 第3次明石市農業基本計画策定にかかる農会アンケート結果

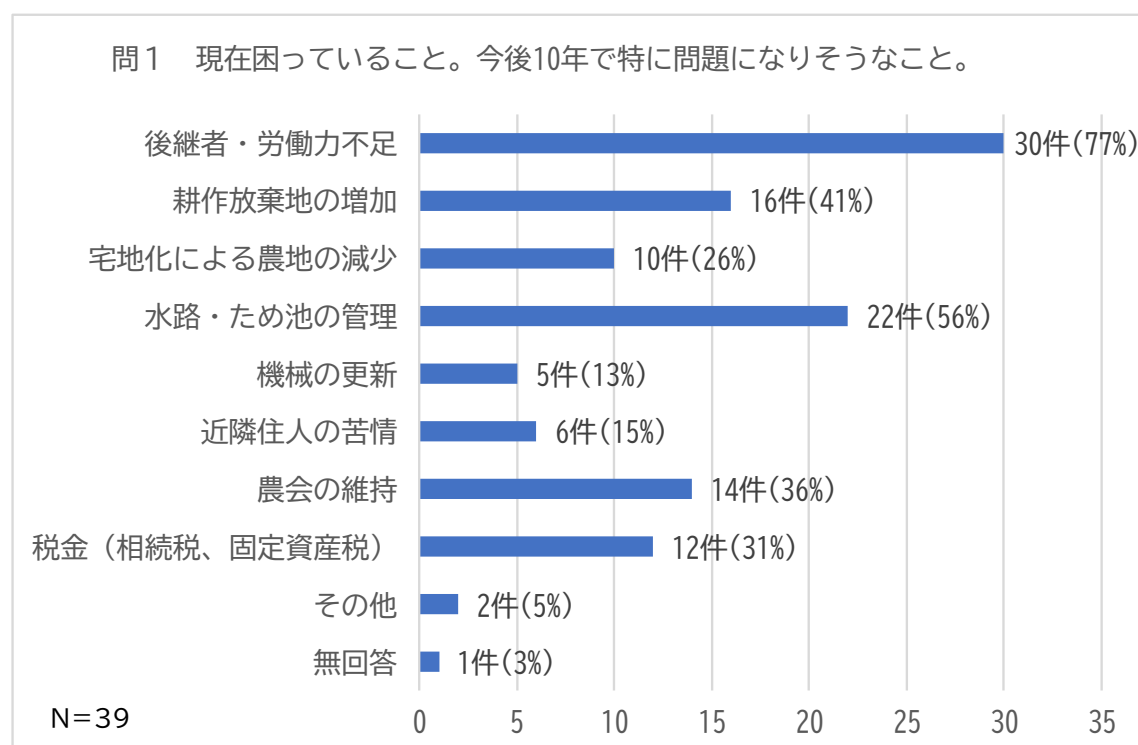
【調査対象】市内47農会の農会長

【調査期間】令和6年7月8日から7月31日

【回収率】83.0%（39件回収）

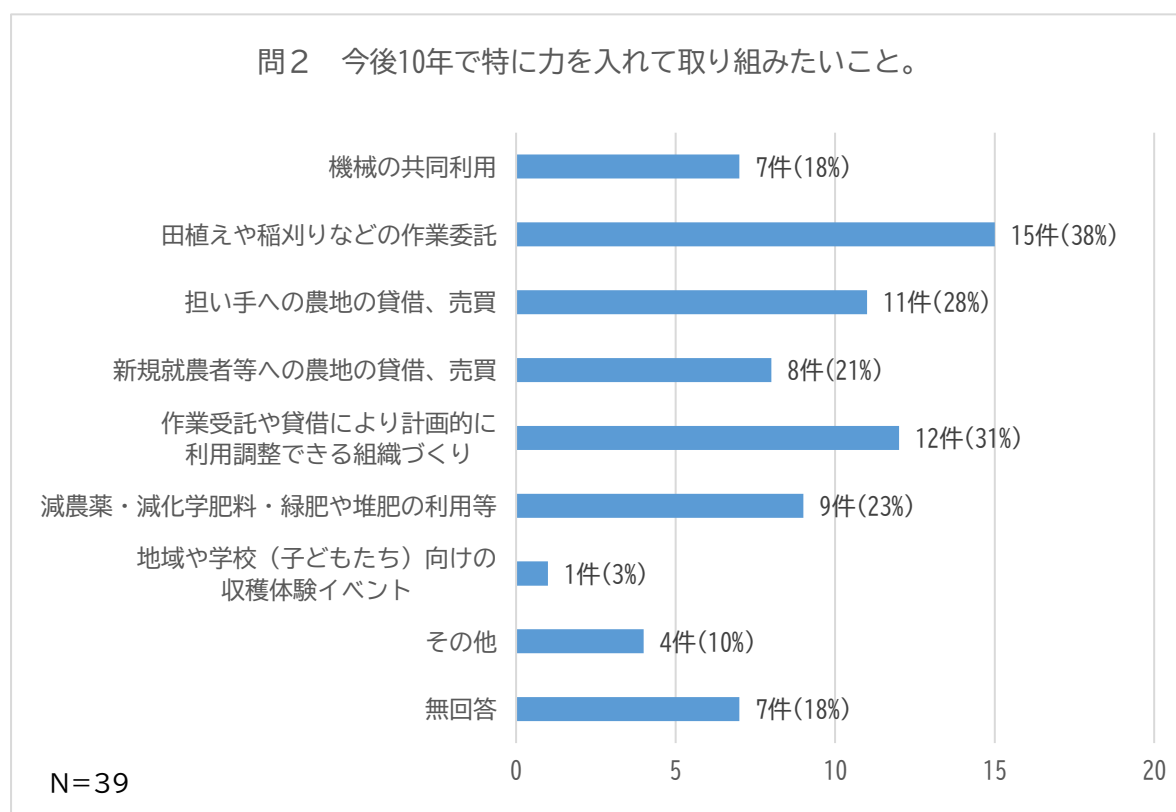
問 1 各農会や集落で、現在困っていること、また、今後10年間（2034年頃まで）で特に問題になりそうなことを教えてください。

	項目	件数	%
1	後継者・労働力不足	30	77%
2	耕作放棄地の増加	16	41%
3	宅地化による農地の減少	10	26%
4	水路・ため池の管理	22	56%
5	機械の更新	5	13%
6	近隣住人の苦情	6	15%
7	農会の維持	14	36%
8	税金（相続税、固定資産税）	12	31%
9	その他	2	5%
99	無回答	1	3%



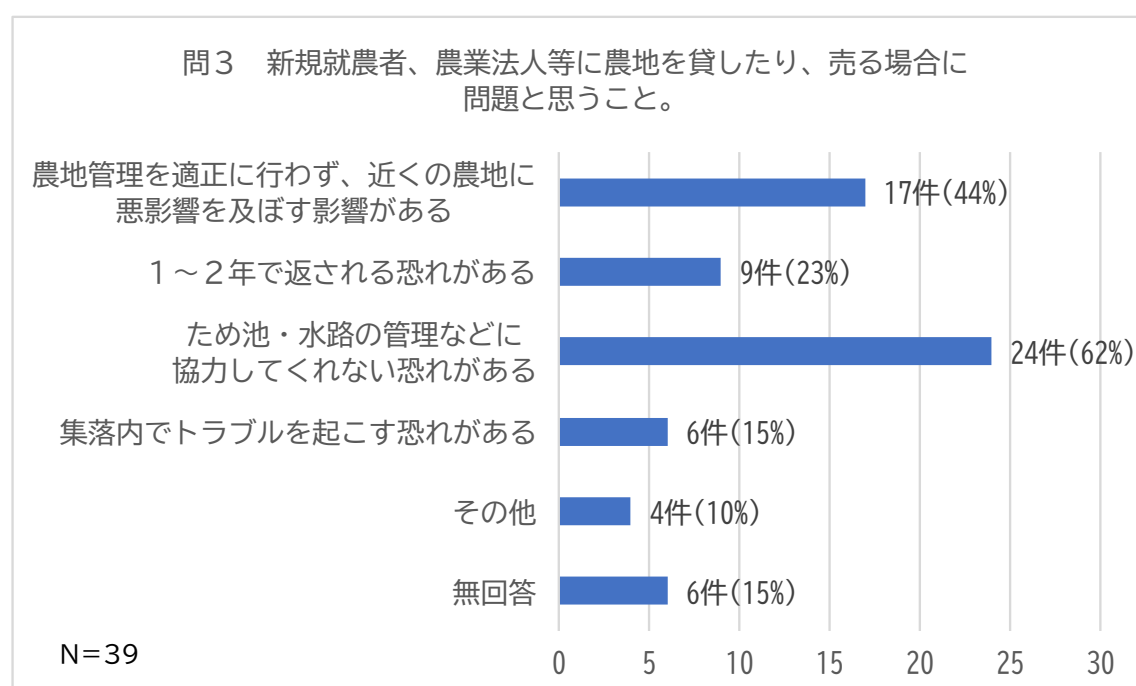
問 2 各農会や集落で、今後 10 年間（2034 年頃まで）で、特に力を入れて取り組みたいことを教えてください。

	項目	件数	%
1	田植機やトラクターなど機械の共同利用	7	18%
2	田植えや稲刈りなどの作業委託	15	38%
3	集落の担い手に農地を貸したり、売る	11	28%
4	新規就農者、農業法人等に農地を貸したり、売る	8	21%
5	農作業を受託したり、農地を借りて計画的に利用・調整を行える組織をつくる	12	31%
6	環境にやさしい農産物づくり（減農薬・減化学肥料・緑肥や堆肥の利用等）	9	23%
7	地域や学校（子どもたち）向けの収穫体験イベント	1	3%
8	その他	4	10%
99	無回答	7	18%



問 3 新規就農者、農業法人等に農地を貸したり、売る場合に問題と思うことはな
んですか。

	項目	件数	%
1	農地管理を適正に行わず、近くの農地に悪影響を及ぼす影響がある	17	44%
2	1～2年で返される恐れがある	9	23%
3	ため池・水路の管理などに協力してくれない恐れがある	24	62%
4	集落内でトラブルを起こす恐れがある	6	15%
5	その他	4	10%
99	無回答	6	15%



問 4 今後 10 年間（2034 年頃まで）で、明石市の農業をよりよくするために、どんなことに力を入れるべきだと思いますか？

		項目	件数	%
担 い 手	1	認定農業者や中核的農家の育成・支援	10	26%
	2	新規就農者や若手農家の育成・支援	15	38%
	3	集落営農組織の育成・支援	9	23%
生 産 振 興	4	水田農業（稲作）の支援	14	36%
	5	野菜生産（キャベツ・ブロッコリー・スイートコーン・イチゴ等）の支援	12	31%
	6	ほ場整備・施設整備等の支援	13	33%
	7	共同機械の導入支援	2	5%
	8	農地の集積化支援	5	13%
	9	ため池・水路の維持管理の支援	23	59%
た め 池 ・ 環 境 保 全	10	ため池の活用（クリーンキャンペーン等）の推進	7	18%
	11	里と海の「協働」支援（ため池のかいぼり、一斉放流）	3	8%
	12	環境にやさしい農業（減農薬・減化学肥料・緑肥や堆肥の利用等）の推進	9	23%
	13	有害鳥獣・特定外来植物の駆除	14	36%
	14	農業の多面的機能の啓発	3	8%
市 民 と の 共 創	15	市民農園の開設支援	4	10%
	16	農業ボランティアの育成・支援	3	8%
	17	農業と福祉の連携（障害者や高齢者が農業に携わる機会の提供等）	3	8%
	18	保育施設・学校の農業体験の支援	2	5%
	19	市民への明石の農業のPR（出前授業など）	5	13%
	20	地産地消の推進（直売所やマルシェの支援）	15	38%
	21	学校給食での明石産農産物の利用拡大	13	33%
	99	無回答	1	3%

3. 第3次明石市農業基本計画策定にかかる畜産農業者アンケート結果

【調査年】 令和6年7月

【調査対象者】 市内畜産農業者

【回収率】 66.7%（2件/3件）

問 1 今後の経営の意向について、該当するものに☑を入れてください。

経営の意向	世帯数	備考
現状維持	0	
規模拡大	2	うち1世帯は牛舎が古いので新しく立て替えたい意向
規模縮小	0	
合計	2	

問 2 おおよそ10年後（2034年頃）の経営体制について、該当するものに☑を入れてください。

経営の意向	世帯数
現在と同じ	0
後継者に引き継ぐ	1
現時点では後継者がおらず未定	1
合計	2

問 3 経営において、現在困っていること、また、今後10年間（2034年頃まで）で特に問題になりそうなことを教えてください。（3つまで）

経営において困っていること	世帯数	経営の意向	世帯数
後継者・労働力不足	0	預託料の高騰	0
資材・飼料等の高騰	2	借入金の返済	1
生乳価格の下落	0	近隣住人の苦情	2
税金（相続税、固定資産税）	0	子牛（肉牛）の販売価格の下落	0
機械・施設の更新	1	販路	0
合計			6

問 4 今後 10 年間（2034 年頃まで）で、特に力を入れて取り組みたいことを教えてください。（いくつでも）

特に力を入れて取り組みたいこと	世帯数
後継者の育成	0
飼養技術の向上	2
機械や I C T の導入による作業の効率化	1
新たな販路の開拓等による販促	0
環境にやさしい畜産業の確立（堆肥の供給、牛由来メタンの抑制 等）	1
加工品の生産・販売や 6 次産業化の取組み	0
自給飼料の生産	0
酪農ヘルパー等の外部支援組織の活用	0
畜産農家同士の連携強化（飼料の共同生産、情報交換 等）	0
耕種農家との連携強化（飼料用米・W C S の生産、稲わらの提供 等）	1
地域や近隣住人の理解醸成やコミュニティーの形成	1
合計	6

問 5 今後 10 年間（2034 年頃まで）で、明石市の畜産業をよりよくするために、どんなことに力を入れるべきだと思いますか？（いくつでも）

力を入れるべきだと思うこと	世帯数
認定農業者や中核的農家の育成・支援	0
新規就農者や若手農家の育成・支援	0
機械導入や施設整備等の支援	2
耕畜連携の推進	2
環境にやさしい畜産業（堆肥の供給、牛由来メタンの抑制 等）の推進	2
農業と福祉の連携（障害者や高齢者が農業に携わる機会の提供等）	0
地産地消の推進	0
自給飼料生産の支援	0
販路拡大とブランド化（明石産のプロモーション）	0
市民や子どもたちへの酪農の P R	1
合計	7

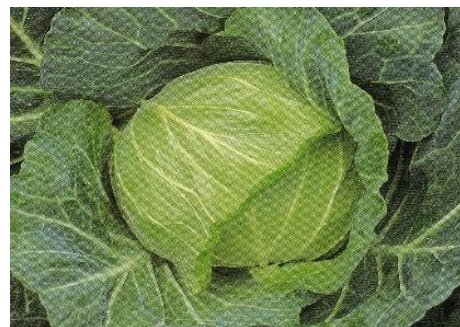
4. 明石の農産物

◆キャベツ

県下第3位の主産地。明石の野菜と言えばキャベツ、戦後まもなく栽培が始まった。秋・冬・春・初夏にわたって、その時々が一番味の良い品種をリレー栽培するなど、美味しいキャベツを食べてもらいたいという気持ちは県下一のこだわりを持つ。近年は高齢化に対応して機械化が進められている。

○ 主な生産地：大久保町、魚住町

○ 収穫時期：10月～6月



◆ブロッコリー

一時は輸入物におされて栽培が少なくなっていたが、“安心の国内産”として生産が復活。鮮度と美味しさが特徴で、地場産として根強い評価を得ている。ほんのり甘みがあって本当に美味。

○ 主な生産地：魚住町、二見町

○ 収穫時期：10月～5月



◆いちご

「清水のいちご」と言えば知る人ぞ知る逸品。約60年前に兵庫県で育成された品種“宝交早生”で高い技術を次々と駆使して全国をリードしたのが有名。クリスマスケーキにいちごがのるようになったのは明石のおかげと言われている。

○ 主な生産地：魚住町清水

○ 収穫時期：12月～6月



◆スイートコーン

早朝4時頃から収穫を始め“朝どりスイートコーン”として店頭に出回っている。一株一果どりで栽培技術が高く、見事な粒張り、色上がりが特徴です。甘くて美味しいスイートコーンは鮮度が命である。

○ 主な生産地：魚住町、二見町

○ 収穫時期：6月～8月



◆トマト

あまり知られてないが明石を代表する夏野菜。戦後まもなく栽培が始まり、いちご同様に明石の農業者の技術力が全国的に評価された。品質そろいが良く味の濃いトマト作りは今も受け継がれている。

- 主な生産地：市内各所
- 収穫時期：一年中



◆ぺっちゃんうり

漬け物用に“青うり”“ぺっちゃんうり（まくわうり系）”が生産されているのも明石の特長。青うりは奈良漬などに、ぺっちゃんうりはほのかな甘みの浅漬けとして夏場の食欲を誘ってくれる。明石の伝統野菜のひとつである。

- 収穫時期：7月～9月



